

# 学校安全マニュアル



大崎市立田尻小学校

令和4年度

## 学校安全マニュアル 目次

(ページ)

## 【 学校安全全体計画 】

## 【 災害安全 】

I-1	防災教育全体計画	1
I-2	年間指導計画	2, 3, 4
I-3	動員体制	5, 6
I-4	校内災害本部組織と業務	7, 8
I-5	連絡体制図	9
I-6	想定される災害	10
I-7	本校周辺の災害危険箇所	11
II-1	大地震後大洪水が想定される場合の対応と避難誘導	
	(1) 在校時発生	12, 13
	(2) 登下校時発生	14
	(3) 校外学習時発生	15
	(4) 休日・夜間等の発生	16
II-2	地震後の避難誘導	
	(大洪水が想定されない)	
	(1) 在校時発生	17, 18
	(2) 登下校時発生	19
	(3) 校外学習時発生	20
	(4) 休日・夜間等の発生	21
II-3	保護者への引き渡し	22
II-4	待機(宿泊時, 校外学習時)	23, 24
II-5	避難所の設置・運営	
	(1) 学校が避難所となる場合の対応	25, 26
	(2) 校舎避難経路・避難所配置図	27
II-6	学校再開	28
III-1	原子力災害時の対応	29, 30, 31
	(1) 原子力災害の発生	
	(2) 初動体制	
	(3) 校内対策本部の役割	
	(4) 災害への対応	
	(5) 情報連絡体制	
III-2	風水害想定への対応(暴風, 洪水, 注意報発令)	32, 33
	(1) 暴風警報発表時(災害発生前)	
	(2) 災害発生時(在校時)	
III-3	火山災害想定	34, 35
	(1) 平常時	
	(2) 火山活動時	
III-4	突風・竜巻が想定される場合の対応	36
III-5	弾道ミサイル発射時の緊急事態対応について	37, 38, 39, 40
III-6	熊等の害獣出没の場合の対応について	41, 42
IV-1	資料	43~45
	○火山警報, 噴火現象	
	○津波警報等	

## 【 生活安全 】

I-1	校舎内外の安全点検	46
I-2	不審者への対応	47
I-3	学校事故に関する対応	48~51

## 【 交通安全 】

I-1	交通安全月別年間指導計画	52
I-2	交通安全運動実施計画	53

## 学校安全マニュアル 目次

(ページ)

## 【 学校安全全体計画 】

## 【 災害安全 】

I-1	防災教育全体計画	1
I-2	年間指導計画	2, 3, 4
I-3	動員体制	5, 6
I-4	校内災害本部組織と業務	7, 8
I-5	連絡体制図	9
I-6	想定される災害	10
I-7	本校周辺の災害危険箇所	11
II-1	大地震後大洪水が想定される場合の対応と避難誘導	
	(1) 在校時発生	12, 13
	(2) 登下校時発生	14
	(3) 校外学習時発生	15
	(4) 休日・夜間等の発生	16
II-2	地震後の避難誘導 (大洪水が想定されない)	
	(1) 在校時発生	17, 18
	(2) 登下校時発生	19
	(3) 校外学習時発生	20
	(4) 休日・夜間等の発生	21
II-3	保護者への引き渡し	22
II-4	待機(宿泊時, 校外学習時)	23, 24
II-5	避難所の設置・運営	
	(1) 学校が避難所となる場合の対応	25, 26
	(2) 校舎避難経路・避難所配置図	27
II-6	学校再開	28
III-1	原子力災害時の対応	29, 30, 31
	(1) 原子力災害の発生	
	(2) 初動体制	
	(3) 校内対策本部の役割	
	(4) 災害への対応	
	(5) 情報連絡体制	
III-2	風水害想定への対応(暴風, 洪水, 注意報発令)	32, 33
	(1) 暴風警報発表時(災害発生前)	
	(2) 災害発生時(在校時)	
III-3	火山災害想定	34, 35
	(1) 平常時	
	(2) 火山活動時	
III-4	突風・竜巻が想定される場合の対応	36
III-5	弾道ミサイル発射時の緊急事態対応について	37, 38, 39, 40
III-6	熊等の害獣出没の場合の対応について	41, 42
IV-1	資料	43～45
	○火山警報, 噴火現象	
	○津波警報等	

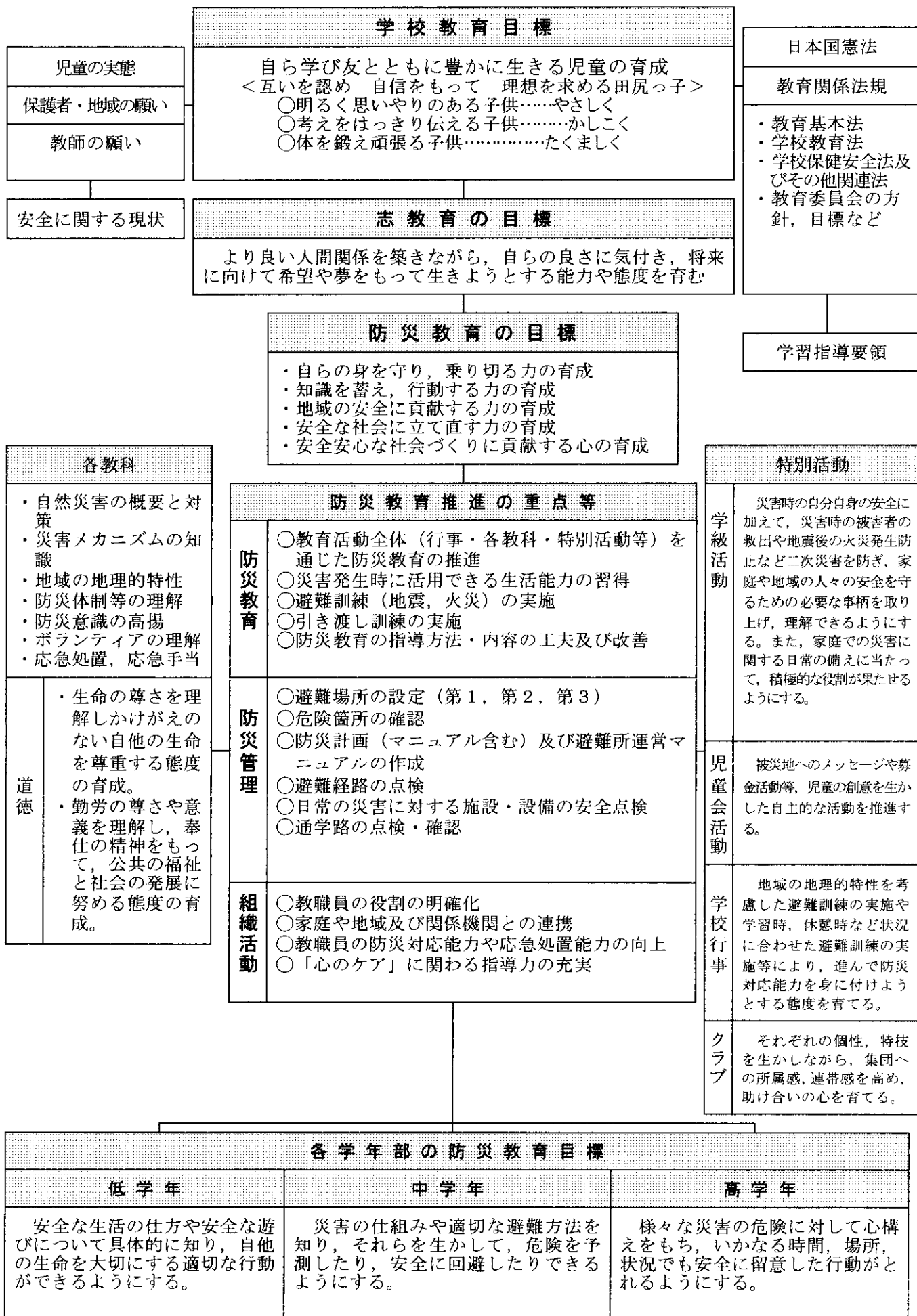
## 【 生活安全 】

I-1	校舎内外の安全点検	46
I-2	不審者への対応	47
I-3	学校事故に関する対応	48～51

## 【 交通安全 】

I-1	交通安全月別年間指導計画	52
I-2	交通安全運動実施計画	53

# 【災害安全】 防災教育全体計画



## (2) 年間指導計画 (高学年)

月	防災管理	組織活動	防 災 教 育 (※副読本)			
	関 連 行 事	教 科	道 徳	総合的な学習の時間	特別活動その他	
4	・避難経路確認(校舎より) ・安全点検、登校指導の確認 ・交通安全教室 ・危機管理体制の確認 ・防犯パトロール対面式	・天気の変化 (5年:理科)	※明るい未来へ (その他:5年)		・校内危険箇所の確認 (全学年) ・災害時の避難の仕方 (全学年) ※緊急地震速報を知って おこう (第6章:5・6年)	
5	・安全点検 ・避難訓練(不審者) ・居住地確認	・国土の地形の特色と人々のくらし (5年:社会)	・おばあちゃんが残したもの(5年)  ※元気になろう (第6章:5年)		・地域の危険箇所の確認 (全学年) ・合宿時の避難(5年)	
6	・安全点検 ・安全なプールの使い方確認 ・通学路点検 (PTA環境指導部) ・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練				・安全なプールの使い方の確認 (全学年)  ・地震の危険と避難の仕方 (全学年)	
7・8	・安全点検 ・地域の危険箇所点検(学校) (通学路を含む)	・着衣泳			・大雨の時の避難 ・夏休みの過ごし方 (全学年)	
9	・安全点検 ・休憩時避難訓練 (放送を聞く)	・台風と天気の変化 (5年:理科) ※風水害の危険と備えについて (第2章:5年)			・修学旅行時の避難 (6年) ・休憩時避難訓練 (全学年)	
10	・安全点検 ・避難訓練(火災)	・流れる水の働き (5年:理科) ・大地のつくりと変化 (6年:理科) ※火山の歴史 (第2章:6年)		・助け合い・共に生きる(6年) ※助け合って生活するために (第4章:6年) ※わたしたちにできること (第4章:6年)	・火災の危険と避難 (全学年)	
11	・安全点検 ・防火設備、用具の点検 ・休憩時避難訓練	・未来に生かす自然のエネルギー (6年:国語)	・お母さんへの手紙 (6年) ※伝えたいもの (第7章:6年)	※たくさんのありがとう (第4章:6年)	・休憩時避難訓練 (全学年))	
12	・安全点検 ・ストーブ等の扱い方の確認 ・防災研修会 ・防災教室	・病気の予防 (6年:保健体育)			・冬休みの過ごし方 (全学年)	
1	・安全点検	・わたしたちの生活と政治 (6年:社会)  ※災害からわたしたちの生活を文える (第5章:6年)		・東日本大震災を調べよう(5年) ※東日本大震災を忘れない (第1章:5年) ※災害について知る (第2章:5年)	・災害への備えと地域での協力(高学年)  ※震災後の生活 (第5章:5年)	
2	・安全点検 ・防災教育の評価と反省	・けがの防止 (5年:保健体育) ※我が家の安全対策 (第3章:5年)	・コースチャぼうやを救え (5年) ・夢(6年) ※大好きなこと (その他:6年)	※災害時の情報収集 (第5章:5年) ※東日本大震災と近年の自然災害と被害 (その他:5年)		
3	・安全点検	・自然災害を防ぐ (5年:社会) ※地震の時の危険予測 (第3章:5年)			・春休みの過ごし方 (全学年)	

## (2) 年間指導計画 (中学年)

月	防災管理	組織活動	防 災 教 育 (※副読本)			
	関 連 行 事		教 科	道 徳	総合的な学習の時間	特別活動その他
4	・避難経路確認（校舎より） ・安全点検，登校指導の確認 ・交通安全教室 ・危機管理体制の確認 ・防犯パトロール対面式		・火事からくらしを守る （3年：社会）  ※地震による被害 （第1章：4年）		※未来に向かって （その他：4年）  ※学校にいるとき地震 が起こったら （第2章：3・4年）	・校内危険箇所の確認 （全学年） ・災害時の避難の仕方 （全学年） ※地震はいつ起こるか分 からない （第1章：3年）
5	・安全点検 ・避難訓練（不審者） ・居住地確認				※津波から身を守るた めに（第2章：4年）	・地域の危険箇所の確認 （全学年）
6	・安全点検 ・安全なプールの使い方確認 ・通学路点検 （PTA環境指導部） ・避難訓練（地震） ・引き渡し訓練	・わたしの町，みんなの町 （3年：社会）  ※まちの防災施設・標識 （第4章：3年）	・ヌチヌグスージ （いのちのまつり）3年 ※負けない （その他：3年）  ・わたしの見つけた小さ な幸せ 4年 ※もしもねがいがかな うなら （その他：4年）	※ぼくの震災日記 （第1章：4年）  ※家にいるとき地震が 起こったら （第2章：3・4年）  ※登下校中や外で地震 が 起こった （第2章：4年）	・校外学習の避難 （3年） ・安全なプールの使い方 の確認（全学年） ・地震の危険と避難の仕 方（全学年）  ※登下校中や外で地震が 起こった （第2章：3年）	
7 ・ 8	・安全点検 ・地域の危険箇所点検（学校） （通学路を含む）	・着衣泳	・ごみステーション3年 ※ひげのヒーロー （第6章：3年）	※台風などから身を守 るために （第2章：4年）	・大雨の時の避難 ・夏休みの過ごし方 （全学年）	
9	・安全点検 ・休憩時避難訓練 （放送を聞く）			※東日本大震災をわす れない （第7章：3年） ※復旧・復興へのあゆ み（第7章：4年）	・休憩時避難訓練 （全学年）	
10	・安全点検 ・避難訓練（火災）		・いただいたいのち 3年	※「防災マップ・復興 マップを作ろう」 （第2章：3年） ※「みやぎの子どもた ちへ」 （その他：3年）	・校外学習時の避難 （4年） ・火災の危険と避難 （全学年）	
11	・安全点検 ・防火設備，用具の点検 ・休憩時避難訓練			※災害時の救助活動 （第4章：4年）	・休憩時避難訓練 （全学年）	
12	・安全点検 ・ストーブ等の扱い方の確認 ・防災研修会 ・防災教室	・県のひろがり （4年：社会） ※わたしたちの宮城 （第1章：4年）			・冬休みの過ごし方 （全学年）	
1	・安全点検					
2	・安全点検 ・防災教育の評価と反省		・走れ江ノ電光の中へ 4年 ※まゆかへ （第6章：4年）		※助け合って生活するた めに「大丈夫」 （第3章：3年）	
3	・安全点検			※しょうらいのわたし へ（第6章：4年）	・春休みの過ごし方 （全学年）	

## (2) 年間指導計画（低学年）

月	防災管理	組織活動	防 災 教 育（※副読本）			
	関 連 行 事	教 科	道 徳	学級活動	学校行事その他	
4	・避難経路確認（校舎より） ・安全点検，登校指導の確認 ・交通安全教室 ・危機管理体制の確認 ・防犯パトロール対面式	・がっこうだいすき （1年：生活） ※学校内の命を守るものをさがそう （第5章：1年）		・災害時の避難の仕方 （全学年） ※家にいるときに地震がおこったら （第3章：1年）  ※未来に向かって （その他：2年）	・校内危険箇所の確認 （全学年）  ※学校にいるときに地震がおこったら （第3章：1・2年）	
5	・安全点検 ・避難訓練(不審者) ・居住地確認	・どきどきわくわくまちたんけん （2年：生活） ※わたしたちを守る地域の人々（第5章：2年）	・ぼくのあさがお(1年)		・地域の危険箇所の確認 （全学年）	
6	・安全点検 ・安全なプールの使い方確認 ・通学路点検 （PTA環境指導部） ・避難訓練（地震） ・引き渡し訓練	・なつだあそぼう （1年：生活） ※空のようすがかわったら （第2章：1年）		※ぼくとじしん （第2章：1年）  ※家族で話し合おう （第2章：2年）	・地震の危険と避難の仕方 （全学年） ・安全なプールの使用方の確認 （全学年）	
7・8	・安全点検 ・地域の危険箇所点検(学校) （通学路を含む）	・着衣泳		※黒い雲が近づいてきたら （第2章：1年）	・大雨の時の避難 ・夏休みの過ごし方 （全学年） ※海の近くにいるときに地震がおこったら （第3章：1・2年）	
9	・安全点検 ・休憩時避難訓練 （放送を聞く）			※外にいるときに地震がおこったら （第3章：1年） ※こわかった大震災 （第3章：2年）	・校外学習時の避難 （1，2年） ・休憩時避難訓練 （全学年）	
10	・安全点検 ・避難訓練（火災）		・じぶんがしんごうきに （2年）	※かせつじゅうたくを作るしごと （第7章：2年）	・火災の危険と避難 （全学年）	
11	・安全点検 ・防火設備，用具の点検 ・休憩時避難訓練				・休憩時避難訓練 （全学年）	
12	・安全点検 ・ストーブ等の扱い方の確認 ・防災研修会 ・防災教室		・ぼく（2年） ・いのちがあつてよかった（1年）	※かなしいときこわいとき（第6章：2年）	・冬休みの過ごし方 （全学年）	
1	・安全点検		・いまぼくにできること （2年） ※助け合つて生活するために（第4章：2年）	※東日本大震災を忘れない（第1章：1年）		
2	・安全点検 ・防災教育の評価と反省					
3	・安全点検			※あたりまえ （その他：2年）	・春休みの過ごし方 （全学年）	



(3) 特別警戒配備 (1号配備)

配備発令基準		<ul style="list-style-type: none"> <li>○市域に<b>震度5弱</b>を記録し局地災害が発生した場合、若しくは発生することが予想されるとき</li> <li>○数地域に災害が発生したとき、若しくは災害が拡大するおそれが予想されるとき</li> <li>○はん濫警戒情報が発令されたとき、又は避難判断水位（水防法第13条で規定する特別警戒水位）を超過すると予想されるとき</li> <li>○災害の状況により市長が必要と認めたとき</li> </ul>			
本部設置		●警戒本部設置（安全確保、避難誘導、情報収集、連絡活動、応急対策）			
本部長（学校長）		防災主任		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに配備につく</li> <li>・<b>地震</b>；迅速に避難誘導させる</li> <li>・<b>洪水</b>；各種情報を確認し、迅速に高台に避難させる。</li> <li>その他の災害；気象情報等を確認し、下校を含めた安全対策を検討する。</li> <li>・避難者の対応について</li> <li>・防災担当課、教育委員会へ報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに学校で配備につく</li> <li>・災害の状況、情報を確認、必要に応じた対応を指示する（児童の安全確保、施設の破損状況、登校の判断、避難所開設等）</li> <li>・防災担当課、教育委員会へ報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに配備につく</li> <li>・避難指示する。（放送等）</li> <li>・情報収集と教職員へ周知徹底</li> <li>・全職員の業務を的確に指示し、迅速に対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅待機</li> <li>・本部長から指示を受けた内容を全教職員に周知する。（児童の安全確認、登校判断）</li> <li>・本部長の指示を受け、避難所開設準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として全教職員が配備につく。</li> <li>・防災主任からの指示を受け、担当業務に当たる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅待機。</li> <li>・防災主任からの指示を受け、担当業務に当たる。</li> </ul>

(4) 特別警戒配備 (2号配備)

配備発令基準		<ul style="list-style-type: none"> <li>○市域に<b>震度5強以上</b>を記録したとき</li> <li>○市域に激甚な災害が発生したとき</li> <li>○災害の状況により市長が必要と認めたとき</li> </ul>			
本部設置		●警戒本部設置（安全確保、避難誘導、情報収集、連絡活動、応急対策）			
本部長（学校長）		防災主任		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに配備につく</li> <li>・<b>地震</b>；迅速に避難誘導させる</li> <li>・<b>洪水</b>；各種情報を確認し、迅速に避難する。（二次、三次避難場所）</li> <li>その他の災害；気象、交通情報等を確認し、下校を含めた安全対策を検討する。</li> <li>・避難者の対応について</li> <li>・防災担当課、教育委員会へ報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに学校で配備につく</li> <li>・災害の状況、情報を確認、必要に応じた対応を指示する（児童の安全確保、施設の破損状況、登校の判断、避難所開設等）</li> <li>・防災担当課、教育委員会へ報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに配備につく</li> <li>・迅速に避難指示する。（放送、メガホン等）</li> <li>・一次避難場所の安全確認をする。</li> <li>・本部長の指示で二次、三次避難場所への避難を指示する。</li> <li>・情報の収集と教職員への周知徹底</li> <li>・全職員の業務を的確に指示し、迅速に対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直ちに学校での配備につく</li> <li>・本部長から指示を受けた内容を全教職員に周知する。（児童の安全確認、登校判断）</li> <li>・本部長の指示を受け、避難所開設準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が直ちに配備につく</li> <li>・防災主任からの指示を受け、担当業務に当たる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が直ちに学校での配備につく</li> <li>・防災主任からの指示を受け、担当業務に当たる。</li> </ul>



# I - 3 動員体制

## (1) 警戒配備 (0号配備)

配備発令基準	○市域に大雨, 暴風雪, 大雪, 洪水, 暴風の警報が発令されたとき ○市域に異常な状況が発生し危機管理監が必要と認めたとき				
本部設置	●本部設置なし (情報収集, 連絡)				
本部長 (学校長)		防災主任		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
・ 配備につく ・ 情報収集等を指示する。 (気象, 警報等)	・ 必要に応じて対応する。	・ 配備につき, 情報の収集にあたる。 ・ 本部長 (校長) との連携	・ 必要に応じて対応する。	・ 情報を確認する。 ・ 通常の活動をする。	・ 必要に応じて対応する。

## (2) 警戒配備 (0号配備)

配備発令基準	○市域に <b>震度4</b> の地震が観測されたとき ○市域に上記の警報の1つ以上が発表され, 広範囲にわたる災害が予想されるとき, 又は局地的な災害が発生したとき ○災害の状況により副市長が必要と認めたとき				
本部設置	●学校本部設置 (安全確保, 避難誘導, 情報収集, 連絡活動, 応急対策)				
本部長 (学校長)		防災主任		教職員	
勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外	勤務時間内	勤務時間外
・ 直ちに配備につく ・ <b>地震</b> ; 児童の安全確保, 施設損壊状況を確認させる。 ・ <b>洪水</b> ; 各種情報を確認し, 待機, 避難を迅速判断する。 <b>その他の災害</b> ; 気象情報等を確認し, 下校を含めた安全対策を検討する。 ・ 教育委員会へ報告	・ 翌日7時までに出勤する ・ 災害の状況, 情報を確認, 必要に応じた対応を指示する (児童の安全確保, 施設の破損状況, 登校の判断等) ・ 教育委員会へ報告 ・ 夜間に発生した場合は, 翌朝被害状況を確認し, 午前8時半までに教育委員会へ報告	・ 直ちに配備につく ・ 待機, 避難を指示する。(放送等) ・ 情報を収集する (気象情報, 警報) ・ 本部会議で確認した内容を教職員に周知徹底する。	・ 自宅待機 ・ 自宅等で本部 (学校) からの連絡を待つ。	・ あらかじめ定められた教職員は <b>配備につく</b> ・ 配備職員以外は, 業務の補助をする。	・ 自宅待機 ・ 自宅等で本部 (学校) からの連絡を待つ。

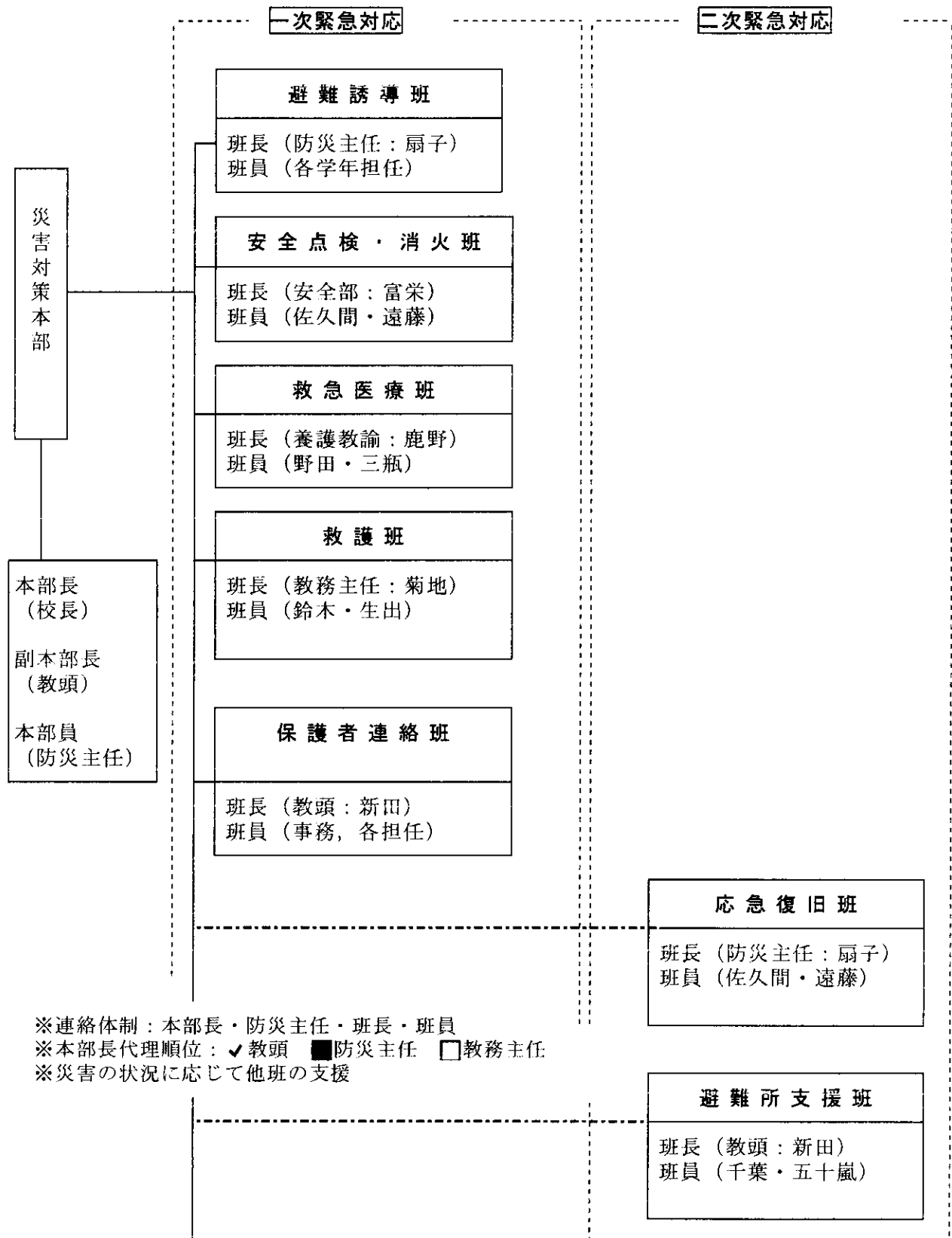
(2) 各班の主な業務内容

班	業 務 内 容	主 な 使 用 物 品
<b>本 部</b> (校長, 教頭, 事務 防災主任)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送等による呼びかけ, 連絡, 指示</li> <li>・各班との連絡調整</li> <li>・教育委員会, 市町村防災対策本部, P T A等の連絡, 報告</li> <li>・情報収集 (気象, 災害, 交通情報)</li> <li>・非常持ち出し品の搬出</li> <li>・報道機関との連絡, 対応</li> </ul>	拡声器, メガホン, ホイッスル, 無線機 (トランシーバー) ラジオ 懐中電灯 乾電池 (各種) 児童名簿
<b>避難誘導班</b> (扇子, 各担任)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震がおさまった直後の安否確認</li> <li>・負傷状況の把握と本部への報告</li> <li>・安全な避難経路の確認と避難誘導</li> <li>・児童の状況 (ケガ, 不明者等) 報告</li> </ul>	拡声器, メガホン, ホイッスル 懐中電灯
<b>安全点検・消火班</b> (千葉, 佐久間, 遠藤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災が発生した場合の初期消火</li> <li>・校舎, 施設の被害程度の調査と本部への報告</li> </ul>	消火器 マスク 安全点検表
<b>救急医療班</b> (鹿野, 野田, 三瓶)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急医薬品, 担架, A E Dの搬出</li> <li>・負傷者の応急手当</li> <li>・救護所の設営 (保健室が使用不可能の場合)</li> <li>・医療機関への搬送, 連絡</li> </ul>	医薬品 担架 毛布
<b>救 護 班</b> (菊地, 堀江, 三神, 鈴木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負傷者の救出, 救命</li> <li>・負傷者, 危険箇所の報告</li> <li>・「こころのケア」の実施</li> </ul>	担架 毛布 バール, スコップなど
<b>保護者連絡班</b> (教頭, 事務, 各担任)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉メール配信, 電話連絡網での対応</li> <li>・地域防災無線, 地域コミュニティーを活用しての連絡</li> <li>・引き渡し場所の指定</li> <li>・児童引き渡し作業</li> </ul>	緊急電話連絡表 引き渡しチェック表 筆記用具
<b>応急復旧班</b> (扇子, 佐久間, 遠藤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害状況の把握</li> <li>・ライフラインの状況把握と本部への報告</li> <li>・危険箇所の応急処置</li> <li>・「立入禁止」「使用禁止」等の表示</li> </ul>	ロープ 各種工具 各種表示
<b>避難所支援班</b> (教頭, 千葉, 鹿野)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村防災担当課と連携して支援</li> </ul>	放送機器 カラーコーン 各種表示 腕章

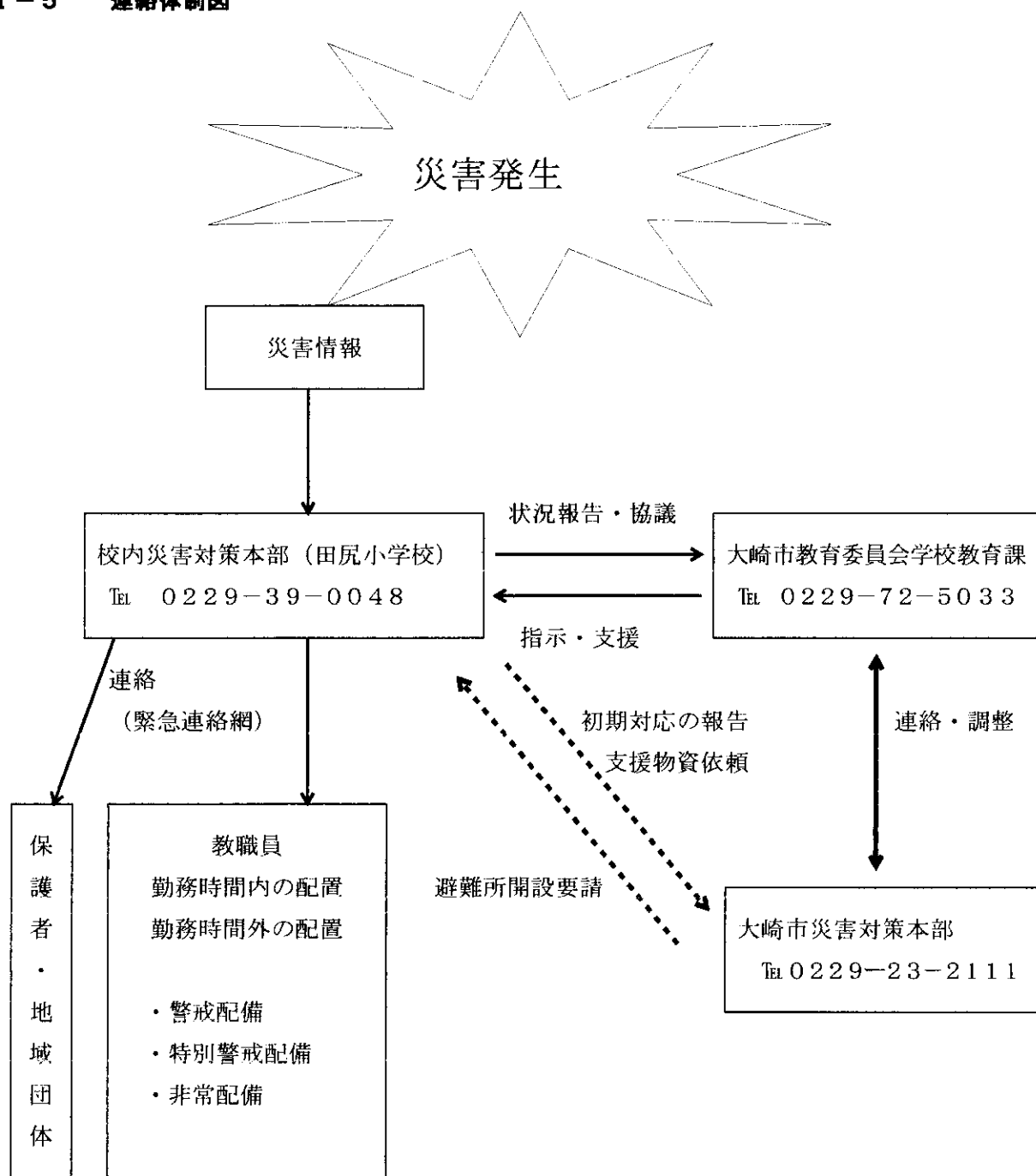
## I - 4 校内災害本部組織と業務

震災の規模や被害状況を踏まえ、学校災害対策本部を設置し、迅速かつ組織的に災害対応に当たる。

### (1) 編成図



I-5 連絡体制図



## I-6 想定される災害について

### 1 洪水災害

- ・当地域を流れる田尻川の氾濫
- ・一級河川の江合川（本校より最短距離約4km）の氾濫，堤防の決壊，
- ・江合川上流部の鳴子ダム決壊
- ・大崎災害マップ（ハザードマップ；浸水想定区域を参照）

### 2 火山災害

- ・本校～鳴子火山群（湯沼火口湖，溶岩ドーム） 距離；約40km
- ・本校～鬼首カルデラ（溶岩ドーム，片山地獄） 距離；約60km

### 3 原子力災害

- ・田尻地区～女川原子力発電所 距離；約40km  
（参照；福島第1原子力発電所～福島県飯館村役場 距離；約39km）

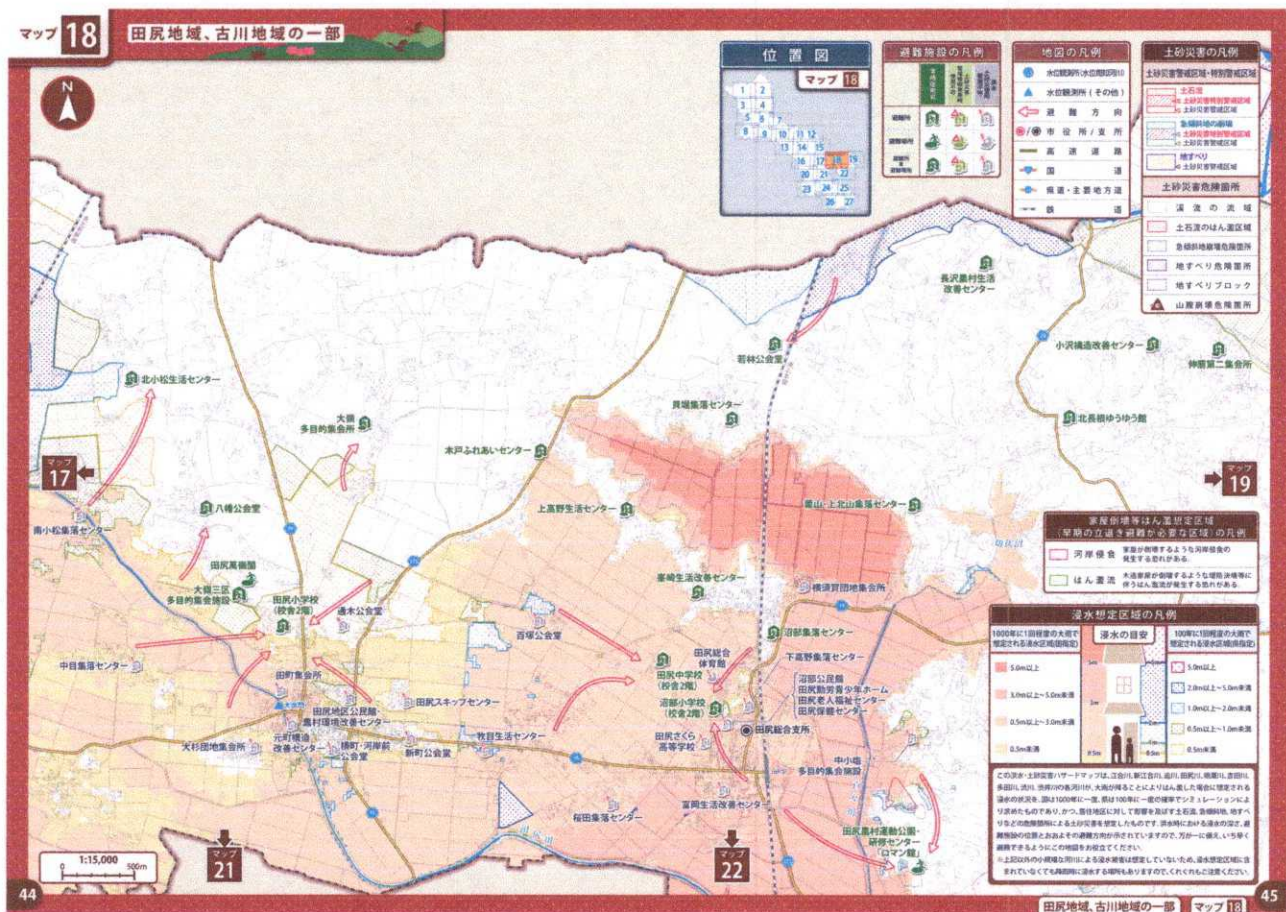
以上の災害が想定されるが，災害が想定をはるかに超える場合も考慮しておくべきであり，それに伴う避難経路や避難場所(第一次，第二次，第三次)を設定しておく必要がある。

## I-7 本校周辺の災害危険箇所

「おおさき防災マップ」より

「浸水想定区域」「土砂災害危険区域」「地滑り・急傾斜区域」の3つのマップは、本校周辺におけるハザードマップであり、国土交通省、宮城県が作成した「江合川水系浸水想定区域図」と宮城県が作成した「土砂災害警戒情報」を基にした「おおさき防災マップ」からの抜粋である。

「浸水想定区域図」は、各河川の流域全体に概ね100年に1回程度起こる大雨が降った場合の想定である。河川から水があふれたり、堤防が決壊する洪水や水路などからの氾濫などの想定を超える大雨や浸水は考慮していない。さらに、地形状況の変化についても考慮されていないため、地図上に指定されていない地域においても浸水する場合や地図上に表現された深さが実際と異なる場合があることを考慮する必要がある。さらに、「土砂災害危険区域」「地滑り・急傾斜区域」の危険度は降雨に基づいて判定しており、個々の急傾斜地の成り立ち・地質・風化の程度・植生・地下水等は考慮していない。



- 化学薬品、石油類危険物の確認をする。
- 救急医療班は、手当の必要な負傷者に応急手当をする。

### 情報収集・避難指示

#### 【本部長（校長）の指示】

- 情報収集とともに安全な場所に避難指示をする。
- 悪天候（強風時、低温時）や地割れなどで、避難場所や避難経路が危険な場合は最も安全な場所を決定する。（例……教職員の車両）

地震はおさまりましたが、余震の心配があります。先生の指示に従って、慌てず第1避難所（駐車場）に避難しなさい。

- 第1避難所に避難させる。（校門前駐車場）
- 落下物、足下に注意し、頭部を保護するように指示する。
- 「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」の約束を守らせる。

### 安否確認

- 人員の確認と報告、負傷者を確認し本部へ報告（欠席、早退、遅刻児童の確認）
- 避難誘導班……不明児童の搜索、救急医療班……負傷者の手当、医療機関との連絡

### 学校対策本部設置

- 本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務にあたる。
- 鳴子ダム決壊、堤防の決壊による洪水などの二次災害の情報を直ちに収集するとともに、洪水到達予想時刻、予想される水位を確認する。
- 第1避難所（駐車場）が危険と判断した場合は、第2避難所に避難する。  
第2避難所……校舎2階もしくは、改善センター2階（地震によるダム決壊の洪水の水位が5m以下と予想される場合）  
第3避難所……旧田尻中学校付近の高台（大洪水の水位が5mを超えると予想される場合）
- ※第3避難所への避難経路は、体育館前を通り、校舎の西側の道路を駆け上がる。
- 児童の不安を緩和するように落ち着いて声がけをする。
- 非常持ち出し袋の搬出、ラジオ等での最新の情報収集
- 保護者、地域住民が避難してきた場合は、一緒に避難する。

### 待機

- 洪水警報が解除するまで待機させる。
- 避難場所での待機は長時間になることを意識させ、児童の体調管理、心理面のサポートをする。

### 事後の対応

- 本部は児童・教職員の被害状況や施設の状況を市教委に連絡し、必要に応じて支援要請を行う。
- 災害の状況、今後の対応について保護者に知らせる。（引き渡し p 18 参照）
- 欠席、早退、遅刻児童の安否確認をする。
- 必要に応じて、通学路の安全確認を行う。



## Ⅱ－１ 大地震後、江合川及び田尻川の堤防決壊等による大洪水が想定される場合の対応と避難誘導

本地域の想定される災害として、大地震と同時に鳴子ダム及び江合川、田尻川の堤防決壊による大洪水が同時に発生することが考えられる。この大規模災害を想定しての対策を考えていく。

### 【避難所の設定】

大地震発生時の第１避難場所は校門前駐車場であるが、その後の洪水被害を考えると第２避難場所は校舎２階が有望であり、校舎が使えない場合は改善センター２階となる。５ｍを超える大洪水の場合の第３避難場所は、旧田尻中学校付近の高台しか、近辺では想定できない。

### （１）児童が在校時の発生

#### 事前指導

●……児童への対応

○……教職員の対応

- 周囲の状況を確認して、「落ちてこない」「倒れない」「移動してこない」場所に待機させる。
- 地震発生後の二次災害について理解させる。（火災、洪水など）
- 避難経路、避難場所を確認させる。（第１、第２、第３避難場所）
  - 第１避難場所……校庭鉄棒前
  - 第２避難場所……校舎屋上（地震によるダム決壊の洪水水位５ｍ以下が予想される場合）
  - 第３避難場所……旧田尻中学校付近の高台（大洪水の水位が５ｍを超えると予想される場合）
- ※第３避難所への避難経路は、体育館前を通り、校舎の西側の道路を駆け上がる。
- ※第３避難所は、校舎から２～３kmぐらい離れているので、第３避難場所への避難はあくまでも大洪水が想定される場合のみとする。
- その他（緊急地震速報、建物の耐震、保護者との連絡方法）

#### 地震発生

宮城県沖震源、**震度６弱以上の地震**を想定  
（数秒後に停電し、校内放送が不可能な状況）

・初期微動から小刻みな揺れが１０秒続き、その後震度４以上最大震度６以上の揺れが３分弱続く。揺れがおさまらないうちに大きな余震が発生

H23.3.11 東日本大震災時 仙台市宮城野区の値

#### 安全確保・安全点検

##### 【教職員の対応】

- 職員は、ハンドマイク、メガホンで避難行動を指示する。

地震です。教室にいる人は机の下にもぐりなさい。机の脚をしっかりと持ちなさい。教室以外にいる人は上から落ちてくる物に注意しなさい。

- 休み時間などで教師が児童から離れている場合は、揺れがおさまってから、児童のいる場所に行き、指導する。
- 揺れがおさまったら慌てず火気の始末をする。
- 落下物、転倒物、ガラスの飛散から身を守るよう呼びかける。
- 壁や窓から離れ、壁や窓に背を向けないように指導する。
- 頭部を机の下に入れさせ、机の脚をしっかりと持たせる。
- 安心させるような声がけを絶えず行う。
- 揺れがおさまりました、出入口の確保、負傷者の確認、火災発生の場合は初期消火をする。

##### 【児童の動き】

「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に避難する

- ・教室：机の下にもぐり、落下物から身を守る。
- ・廊下：壁、窓から離れ、蛍光灯やガラスなどの落下物から身を守る。
- ・体育館：安全な場所に移動し、姿勢を低くする。（天板、天井ライトの落下に注意する）
- ・校庭：倒壊物などから離れ、中央部に避難する。

- 避難誘導班は、避難経路の確認をする。

- 安全点検・消火班は、ガス元栓の閉鎖、火の元の確認をする。

#### (4) 休日、夜間等の発生

##### 事前指導

- 落下物、転倒物から身を守る方法を知らせる。
  - 建物の耐震性、家具の固定等について確認させる。
  - 家庭内での役割分担、避難する場所と避難経路・時間について確認させる。
  - 洪水警報等が発表された場合の避難場所（地域指定避難場所等）と避難経路・時間を確認させる。
  - 必要な防災用品、非常食の準備について考えさせる。
  - 家族内の連絡方法、手段を確認させる。
  - テレビ、ラジオ、インターネット、防災無線による、震源地、震度、津波等に関する情報入手方法について知らせる。
- ※沿岸部にいる場合は大きな地震発生後、津波が来ることを想定し、避難場所（高台、頑丈な建物）を事前に確認する。

##### 地震発生

**震度6弱以上の大地震**を想定（停電、断水、公共交通機関ストップ）

教職員は、宮城県教育委員会災害対策基本要領警戒配備の発令基準、市教委災害対策配備基準等に基づいて、配備につく。

##### 災害対策本部設置

###### 【教職員の対応】

- 本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務にあたる。
- ※自らが被災し、家族、家屋が被災するなどの状況では、配備に時間がかかることがある。  
（自らの安全を確保した上で校務にあたる）
- ※各種警報が発表中は、学校を含め、避難区域に立ち入らない。

##### 安否確認

- 避難解除、警報灯が解除されるまで待機する。
  - 各種連絡方法（電話、メール、災害伝言ダイヤル等）、家庭訪問、避難場所を回り、児童及び家族、教職員の所在、安否を確認する。
  - 関係機関、地域と連携する。
- ###### 【児童の動き】
- 安全を確保した上で、できるだけ早く学校へ連絡する。（安否、所在、家族の被災状況、けが等の状況）

##### 被害状況の確認

###### 【教職員の対応】

- 避難解除、警報等が解除された後、施設、通学路等の被害状況を確認し、本部へ連絡する。

##### 事後対応

- 児童・教職員の被害状況や施設の状況を市教委に連絡し、必要に応じて支援要請を行う。
- 災害の状況、今後の対応について、保護者に知らせる。（メール、家庭訪問、地区掲示板等）
- 警報灯が解除された後、教職員は、学校の施設・設備の点検、必要に応じて通学路の安全点検を行う。

### (3) 校外学習時に発生

#### 事前指導

- 地震、津波を含め災害が発生した場合の対応について事前指導を行う。
- 屋外、建物内、エレベーター内等を想定した対応について指導する。  
(安全な行動、避難方法、連絡方法、集合場所)
- ※沿岸での校外学習では、強い地震が発生後、津波が来ることを想定し、避難場所(高台、頑丈な建物等)・避難経路、所要時間、情報入手方法(ラジオ、防災無線)を事前に確認しておく。
- ※非常時の対応、役割分担を事前に確認しておく。

#### 地震発生

**震度6弱以上の大地震**を想定(停電、断水、公共交通機関ストップ)

- 児童の安全確保を最優先とする。

#### 安全確保・情報収集

##### 【教職員の対応】

- 落下物、転倒物、ガラスの飛散から身を守るように指示する。
- 震源地、震度、津波等に関する情報収集に努める。
- 児童がグループ行動中に地震が発生した場合は、教職員が安否の確認と状況によって保護活動を行う
- ※津波被害が予想される沿岸部では、ラジオや防災無線、携帯電話などで最新の情報収集に努める。
- ※強い揺れや長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、津波警報などを待たずにすぐに避難する。情報は避難先で確認する。

##### 【児童の動き】

- 「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所へ避難する。
- 教職員の指示をしっかり聞き、慌てないで行動する。
- 頭部を保護し、安全な場所で姿勢を低くする。
- 交通機関を利用している場合は、乗務員の指示、放送による指示、誘導に従う。

#### 避難誘導

##### 【教職員の対応】

- 安全な場所への避難を判断し、児童の避難を誘導する。
- 避難後、状況等を学校へ連絡する。(携帯電話、メール)

##### 【児童の動き】

- 教職員の指示に従い、迅速に行動する。
- 教職員が近くにいない場合は、安全な場所に急いで避難する。(津波が予想される場所では高台、頑丈な建物等に避難する)
- 最初の避難場所が危険と判断したら、より安全な場所に移動し、津波警報が解除されるまで待機し、戻らない。

#### 安否確認

##### 【教職員の対応】

- 避難解除、津波に関する注意報、警報が解除されるまで待機する。
- 各種連絡方法、避難場所を回り、所在、安否を確認する。(関係機関との連携)

#### 本部設置

- 本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務にあたる。

#### 事後対応

- 被害の状況、児童、教職員の安否状況を学校へ報告し、必要に応じて支援要請を行う。
- 災害の状況、今後の対応について、保護者に知らせる。

## (2) 児童が登下校時に発生

### 事前指導

- 周囲の状況を確認して「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に身を寄せる。

### 地震発生 宮城県沖震源、震度6弱以上の地震を想定（停電、断水、公共交通機関ストップ）

- 児童の安全確保を最優先とする。（家庭訪問をし、児童の安全を確認する）
- 校舎内外（学校本部教員）、各地区の安全確認（各地区担当教員）

### 安全確保・情報収集

#### 【教職員の対応】

- 学校にいる児童の安全確保・点検等は（1）の「児童在校時の発生」に準ずる。
- 安全な場所に避難させる。
- 状況によって登下校中の児童の保護、安全な場所への誘導をする。

#### 【児童の動き】

- 落下物、ブロック塀の倒壊から逃れるために、頭部を保護し、安全な場所「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」で姿勢を低くする。
- 危険な場所から速やかに遠ざかる、（川岸、橋の上、ガス漏れ箇所など）

### 避難誘導

#### 【教職員の対応】

- （1）の「児童在校時の発生」に準ずる。
- 安否確認、状況によって登下校途中の児童の保護活動を行う。

#### 【児童の動き】

- 洪水被害などが心配される場合は、できるだけ高所に避難する。
- 避難した場所が危険と判断したら、より安全な場所に移動し、警報が解除するまで戻らない。

### 学校災害本部設置

#### 【教職員の対応】

- 本部長、教頭、防災主任の指示により、業務にあたる。
- 必要に応じて、避難住民の対応にあたる。

### 安否確認

- 学校に避難した児童の安否確認は（1）の「児童在校時の発生」に準ずる。
- 避難解除、警報が解除が出るまで、待機する。
- 電話、メール、災害伝言ダイヤル、家庭訪問、避難所巡回等で所在安否を確認する。

### 被害の把握

- 避難解除、警報等が解除された後、施設、通学路等の被害状況を確認し、学校本部に報告する。

### 事後対応

- 本部は児童・教職員の被害状況や施設の状態等を市教委に連絡し、必要に応じて支援要請を行う。
- 災害の状況、今後の対応について、保護者に知らせる。（引き渡し）
- 本部は学校の施設・設備の点検、必要に応じて通学路の安全点検を行う。

#### (4) 休日、夜間等の発生

##### 事前指導

- 落下物、転倒物から身を守る方法を知らせる。
  - 建物の耐震性、家具の固定等について確認させる。
  - 家庭内での役割分担、避難する場所と避難経路・時間について確認させる。
  - 津波警報等が発表された場合の避難場所（地域指定避難場所等）と避難経路・時間を確認させる。
  - 必要な防災用品、非常食の準備について考えさせる。
  - 家族内の連絡方法、手段を確認させる。
  - テレビ、ラジオ、インターネット、防災無線による、震源地、震度、津波等に関する情報入手方法について知らせる。
- ※沿岸部にいる場合は大きな地震発生後、津波が来ることを想定し、避難場所（高台、頑丈な建物）を事前に確認する。

##### 地震発生

宮城県沖震源、**震度5強**の地震を想定（停電、断水はなし）

教職員は、宮城県教育委員会災害対策基本要領警戒配備の発令基準、市教委災害対策配備基準等に基づいて、配備につく。

##### 学校災害対策本部設置

###### 【教職員の対応】

- 本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務にあたる。
- 必要に応じて避難住民の対応にあたる。

##### 安否確認

- 各種連絡方法（電話、メール、災害伝言ダイヤル等）、家庭訪問、避難場所を回り、児童及び家族、教職員の所在、安否を確認し、本部へ報告する。
- 関係機関、地域と連携する。

###### 【児童の動き】

- 安全を確保した上で、できるだけ早く学校へ連絡する。（安否、所在、家族の被災状況、けが等の状況）

##### 被害状況の確認

###### 【教職員の対応】

- 避難解除、警報等が解除された後、施設、通学路等の被害状況を確認し、本部へ連絡する。
- 危険箇所の立入禁止措置、応急手当を行う。

##### 事後対応

- 必要に応じて、児童全員の安否確認をする。
- 災害の状況、今後の対応について、保護者に知らせる。
- 学校の施設・設備の点検、必要に応じて通学路の安全点検を行う。

### (3) 校外学習時に発生

#### 事前指導

●地震、津波を含め災害が発生した場合の対応について事前指導を行う。

●屋外、建物内、エレベーター内等を想定した対応について指導する。

(安全な行動、避難方法、連絡方法、集合場所)

※沿岸での校外学習では、強い地震の発生後、津波が来ることを想定し、避難場所(高台、頑丈な建物等)・避難経路、所要時間、情報入手方法(ラジオ、防災無線)を事前に確認しておく。

※非常時の対応、役割分担を事前に確認しておく。

#### 地震発生

宮城県沖震源、**震度5強**の地震を想定(停電、断水はなし)

○児童の安全確保を最優先とする。

#### 安全確保・情報収集

##### 【教職員の対応】

●落下物、転倒物、ガラスの飛散から身を守るように指示する。

○震源地、震度、津波等に関する情報収集に努める。

○児童がグループ行動中に地震が発生した場合は、教職員が安否の確認と状況によって保護活動を行う

※津波被害が予想される沿岸部では、ラジオや防災無線、携帯電話などで最新の情報収集に努める。

※強い揺れや長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、津波警報などを待たずにすぐに避難する。情報は避難先で確認する。

##### 【児童の動き】

○「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所へ避難する。

○教職員の指示をしっかりと聞き、慌てないで行動する。

○頭部を保護し、安全な場所で姿勢を低くする。

○交通機関を利用している場合は、乗務員の指示、放送による指示、誘導に従う。

#### 避難誘導

##### 【教職員の対応】

●安全な場所への避難を判断し、児童の避難を誘導し、児童の所在を確認する。

●避難後、状況等を学校へ連絡する。(携帯電話、メール)

※津波が予想される沿岸部では、情報収集に努め、避難、待機を判断する。

##### 【児童の動き】

○教職員の指示に従い、迅速に行動する。

○教職員が近くにいない場合は、安全な場所に急いで避難する。(津波が予想される場所では高台、頑丈な建物等に避難する)

○最初の避難場所が危険と判断したら、より安全な場所に移動し、警報が解除されるまで待機し、戻らない。

#### 安否確認

##### 【教職員の対応】

○避難解除、津波に関する注意報、警報が解除されるまで待機する。

○各種連絡方法、避難場所を回り、所在、安否を確認する。(関係機関との連携)

#### 事後対応

○被害の状況、児童、教職員の安否状況を学校へ報告し、必要に応じて支援要請を行う。

(復路の状況把握、帰校方法、帰校時刻)

○災害の状況、今後の対応について、保護者に知らせる。

## (2) 児童が登下校時に発生

### 事前指導

- 周囲の状況を確認して「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に身を寄せる。

### 地震発生 宮城県沖震源、震度5強の地震を想定（停電、断水はなし）

- 児童の安全確保を最優先とする。

### 安全確保・情報収集

#### 【教職員の対応】

- 学校にいる児童の安全確保・点検等は（1）の「児童在校時の発生」に準ずる。
- 安全な場所に避難させる。（出勤途中、帰宅途中も含め）
- 状況によって登下校中の児童の保護、安全な場所への誘導をする。

#### 【児童の動き】

- 落下物、ブロック塀の倒壊から逃れるために、頭部を保護し、安全な場所「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」で姿勢を低くする。
- 危険な場所から速やかに遠ざかる、（崖崩れ、川岸、橋の上、ガス漏れ箇所など）

### 避難誘導

#### 【教職員の対応】

- （1）の「児童在校時の発生」に準ずる。
- 安否確認、状況によって登下校途中の児童の保護活動を行う。

#### 【児童の動き】

- 洪水被害などが心配される場合は、できるだけ高所に避難する。
- 避難した場所が危険と判断したら、より安全な場所に移動し、警報が解除するまで戻らない。

### 学校災害対策本部設置

#### 【教職員の対応】

- 本部長、教頭、防災主任の指示により、業務にあたる。
- 児童の安否確認を最優先にする。
- 本部は震源地、震度、地割れ等に関する情報を収集する。

### 安否確認

- 学校に避難した児童の安否確認は（1）の「児童在校時の発生」に準ずる。
- 児童の所在を確認する。（登校している、していない）
- 保護者へ連絡する。（一斉メール、電話、緊急連絡網）
- 必要に応じて、通学路、避難場所を回り、安否を確認する。

### 被害の把握

- 応急復旧班は、危険箇所の応急手当や立入禁止措置を行う。
- 応急復旧班は、施設、通学路等の被害状況を確認し、本部に報告する。

### 事後対応

- 本部長は全員の安否確認後、授業実施、休校措置と、登校している児童の下校方法、保護者への引き渡し、学校での保護措置等について、保護者へ連絡させる。
- 本部は対応措置について市教委に報告する。



○地割れ、火災などの二次災害の情報を直ちに収集する。

○本部長の指示のもと、第1避難所に避難する。

地震はおさまりましたが、強い余震の心配があります。先生の指示に従って、慌てず避難しなさい。

○悪天候（強風時、低温時）などで、屋外の避難所が待機困難な場合は、もっとも安全な場所を決定する。（安全確認後体育館もしくは1階多目的ホール）

#### 避難誘導

- 落下物、足下に注意して、頭部を保護するように指示する。
- 避難前に人員を確認する。
- 児童の不安を緩和するように、落ち着いて声がけする。
- 「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」の約束を守らせる。
- 非常持ち出し袋を搬出して避難する。
- 本部はテレビ、ラジオ等で情報収集する。
- 保護者、地域住民が避難してきた場合は、一緒に避難する。

#### 安否確認

- 児童の人員の安否を確認し、本部に報告する。
- 救急医療班は負傷者に対して、応急手当を行うとともに、必要に応じて医療機関と連絡をとる。

#### 学校災害対策本部設置

- 本部長、教頭、防災主任の指示により、各業務を行い、必要に応じて避難住民の対応にあたる。

#### 被害状況の確認

- 応急復旧班は施設、通学路の被害状況を確認し、本部に報告する。危険箇所に立入禁止を明示する。
- 地割れなどで第1避難所が危険な場合は、第2避難所（改善センター）に誘導する。

#### 保護者への連絡と引き渡し

- 学校本部で、総合的に判断し、授業の再開、下校時の判断（集団下校、保護者への引き渡し、学校での保護等）の措置について、判断する。
- 対応措置を市教委に連絡、相談する。
- 保護者へ連絡をする。（一斉メール、電話、緊急連絡網等） 電話、メールが使用できない場合を想定して、事前に文書で保護者を取り決めをし、引き渡しの方法を周知しておく。

「震度5強以上の地震発生の場合は、保護者への引き渡しをする」

## Ⅱ－２ 地震後の避難（ダム決壊等の大洪水が想定されない場合）

### （１）児童が在校時の発生

#### 事前指導

●……児童への対応

○……教職員の対応

- 周囲の状況を確認して、「落ちてこない」「倒れない」「移動してこない」場所に身を寄せさせる。
- 避難経路、避難場所を確認させる。（第１，第２避難場所）
  - 第１避難場所……校庭鉄棒前
  - 第２避難場所……改善センター
- 地震発生後の二次災害について理解させる。（火災）
- その他（緊急地震速報，建物の耐震，保護者との連絡方法）

#### 地震発生

宮城県沖震源，震度５強の地震を想定  
（停電はせず，校内放送が可能な状況）

- ・初期微動から小刻みな揺れが１０秒続き，その後震度４以上の揺れが３０秒続く（揺れが始まってから１分間）
- ・緊急地震速報から１０秒後に揺れが襲う。

#### 安全確保・安全点検

##### 【教職員の対応】

- 校内放送により避難行動を指示する。

地震です。教室にいる人は机の下にもぐりなさい。机の脚をしっかりと持ちなさい。  
教室以外にいる人は上から落ちてくる物に注意しなさい。

- 休み時間などで教師が児童から離れている場合は，揺れがおさまってから，児童のいる場所に行き，指導する。
- 揺れがおさまったら慌てず火気の始末をする。
- 落下物，転倒物，ガラスの飛散から身を守るよう呼びかける。
- 壁や窓から離れ，壁や窓に背を向けないように指導する。
- 頭部を机の下に入れさせ，机の脚をしっかりと持たせる。
- 安心させるような声がけを絶えず行う。
- 安全点検・消火班は，揺れがおさまりました，出入口の確保，負傷者の確認をし，火災発生の場合は初期消火をする。

##### 【児童の動き】

「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に避難する

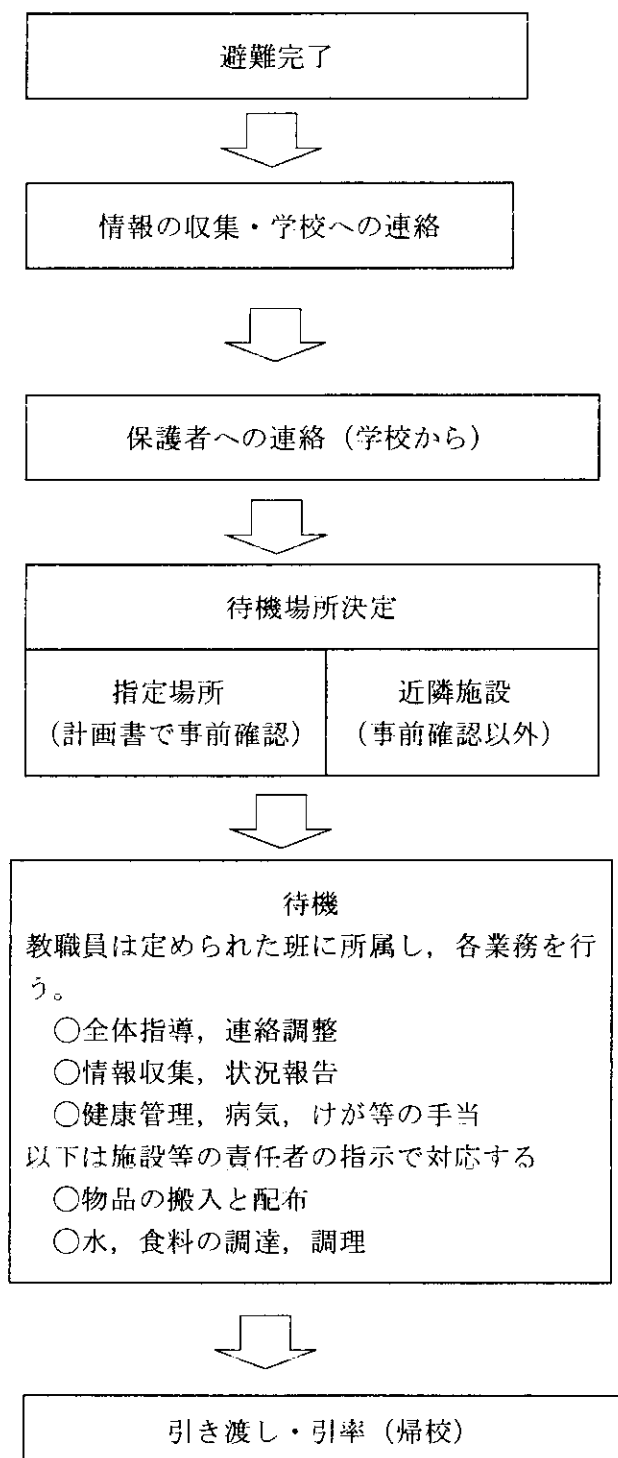
- ・教室：机の下にもぐり，落下物から身を守る。
- ・廊下：壁，窓から離れ，蛍光灯やガラスなどの落下物から身を守る。
- ・体育館：安全な場所に移動し，姿勢を低くする。（天板，天井ライトの落下に注意する）
- ・校庭：倒壊物などから離れ，中央部に避難する。
- 避難誘導班は，避難経路の確認をする。
- 安全点検・消火班は，ガス元栓の閉鎖，火の元の確認をする。
- 化学薬品，石油類危険物の確認をする。
- 救急医療班は，手当の必要な負傷者に応急手当をする。

#### 情報収集・避難指示

##### 【本部長の指示】

- 本部は，テレビ，ラジオ，インターネット，防災無線，携帯電話等で震源地，震度，ダム決壊等に関する最新の情報収集に努める。

## (2) 校外学習等で待機させる場合



○校外学習先の避難場所，待機場所について事前に保護者に連絡しておく。

○グループ別行動時などの場合は，児童に緊急時の連絡先を確認させておく。

○児童の安否，災害の状況を学校へ連絡する。

○学校を通して児童の安否，避難場所等を保護者に伝える。

○グループ別行動中は，安全な待機場所を児童が決定する場合もある。

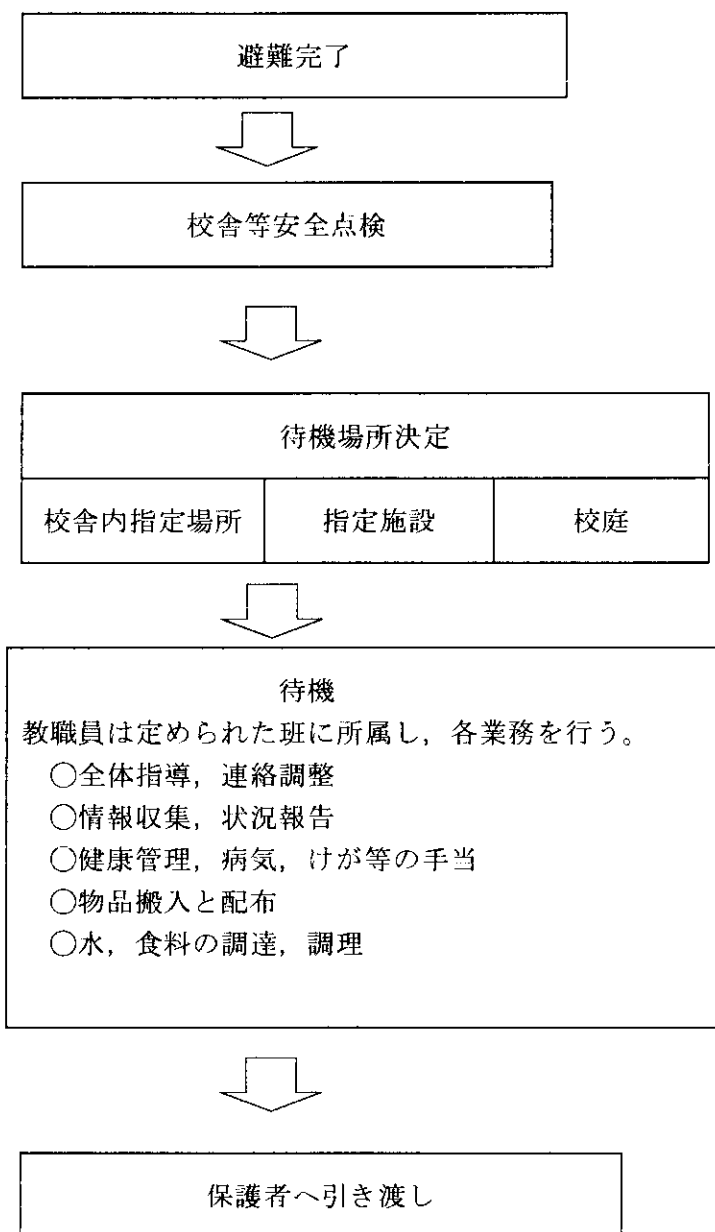
○待機場所の施設責任者と連携をとる。

## Ⅱ－４ 待機（宿泊）

地震による被害や警報等が発せられ、公共交通機関が止まったり、道路が通行止めなどになったりした場合は、帰宅困難となる児童や教職員が生じることが想定される。その場合、安全を考慮し、学校内または避難場所に長時間待機または宿泊せざるを得ないことがある。このため下記の準備を必要とする。

- 長時間の待機あるいは宿泊できる施設……小学校体育館、小学校校舎、改善センター
- 児童、教職員の人数及び性別を考慮した部屋の数……小学校校舎（普通教室、特別教室合わせて14部屋）

### （１）校内（避難場所）で待機させる場合

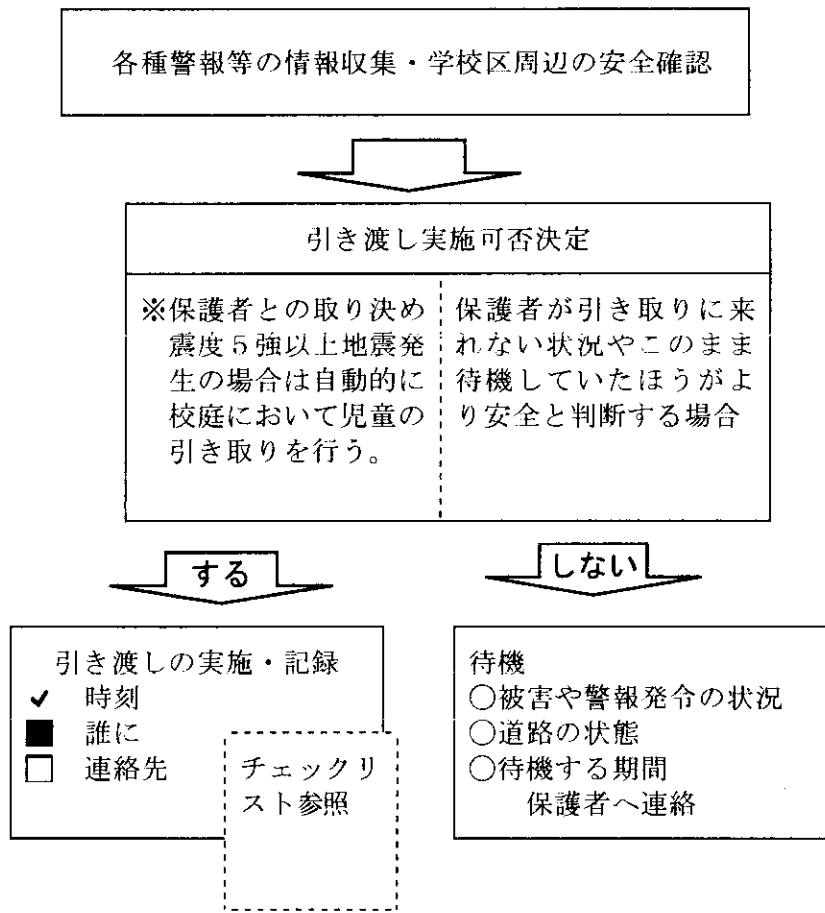


- 災害に関する情報を収集する。
- 校舎内の安全点検（非構造部材の損傷等）をし、本部長に報告する。
- 災害の状況に応じて、待機場所を決定する。
  - ・第1待機場所 小学校体育館
  - ・第2待機場所 小学校教室
  - （想定にとらわれずに決定する）
- 教職員は本部長（校長）の指示を受け、各業務を行う。
- 状況によっては、一緒に避難した保護者、地域の方の協力をおおぐ。
- 地域の方の対応は、教頭、防災主任が当たる。
- 待機中に、保護者が児童の引き取りを要望してきた場合は、災害についての情報を提供し、児童を引き渡さず、保護者とともに学校に留まることや避難待機を促すこともある。

Ⅱ－３ 保護者への引き渡し

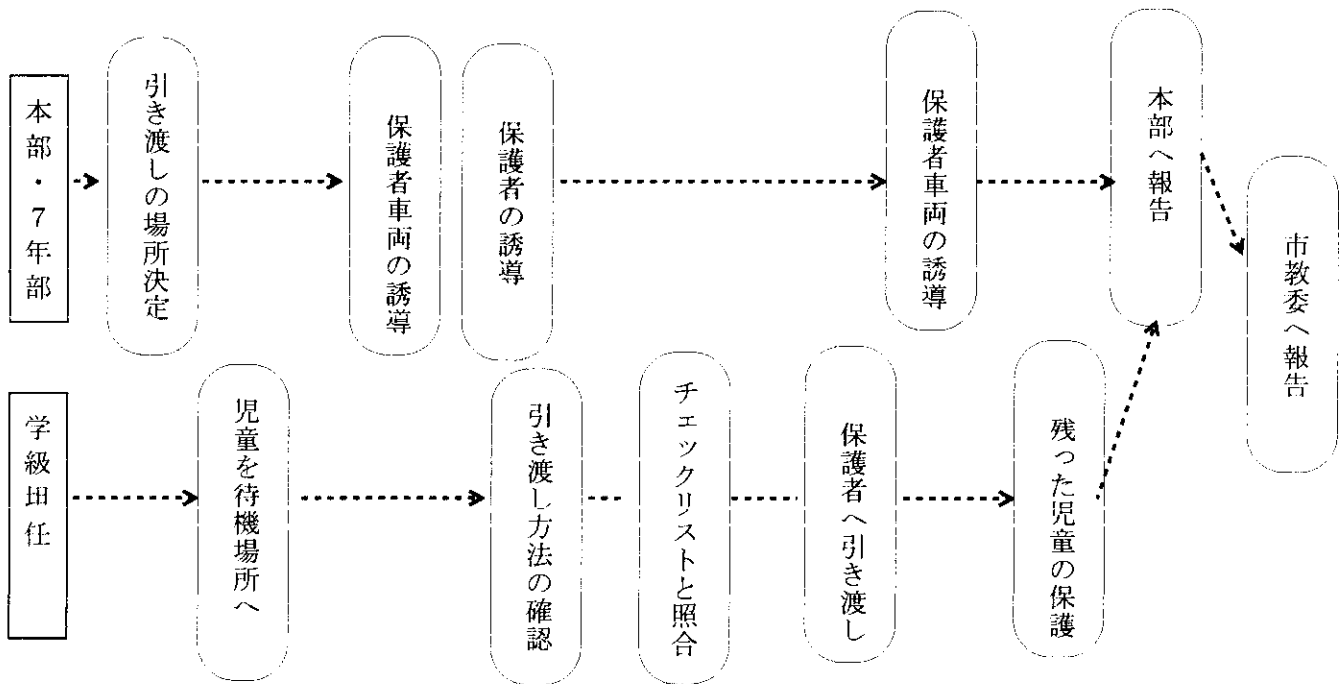
地震の規模や被災状況により、児童を下校させるか、学校に待機させ保護者に引き渡すかなどの判断が必要である。また、大規模な地震後、電話やメールなどの通信手段が使用できなくなるため、保護者と連絡がとれないことがある。そのため、引き渡し、待機の実施判断などについて、学校と保護者の間で事前に周知し、引き渡しの訓練も実施している。

(１) 引き渡しをする場合の対応



- 各種情報を確認し、安全の可否を判断する。
- 情報だけにとらわれず、目視して状況を確認する。
- 引き渡し実施可否の判断は、本部長（校長）が行う。
- 発生後、電話・メール等が使えなくなるので、事前に、保護者との間に引き渡しの取り決めをしておく。
- 保護者に対しても災害に関する情報を提供し、児童を引き渡さず、保護者とともに学校に留まることや避難行動を促すこともある。
- 保護者以外の引き取りについては、チェックリストに明記する。

【校内の引き渡しの手順】



## 初動時避難所開設・運営マニュアル

### 1 目的

大規模災害発生後において、学校は、児童・生徒及び地域住民の安全を守るとともに、地域防災拠点として重要な役割を担うことになる。緊急時には、被災住民が避難して来ることが想定されるので、その時、円滑な避難所の開設・運営ができるようにする。

### 2 避難所としての開放区域

- ・第一の使用可能な開放区域を体育館とする。
- ・事情により体育館に収容できない場合に、普通学級を開放する。
- ・校長室、職員室、保健室、理科室、図工室、家庭科室、コンピュータ室は、原則として開放しない。

### 3 避難所運営体制及び役割

施設管理	施設の管理・関係機関との連絡調整	校長・教頭
総務班	避難所全般のとりまとめ・地域との連絡調整	防災主任
名簿班	避難民の名簿作成・連絡板の設置	教務主任
救護班	負傷者への対応・薬品等の準備、管理	養護教諭・女子職員
児童管理班	児童の管理・名簿作成・引き渡しの対応等	研究主任・各担任
物品係	必要物品の確保と準備	事務職員・男子職員
誘導係	避難者の受け入れ誘導（駐車場等）	業務員

### 4 避難所開設までの流れ

\*児童の安全確認・避難誘導

\*負傷者等の確認 → 応急手当、病院への搬送

#### (1) 施設の解錠

・鍵の保管場所

・鍵の所有者 校長、教頭、事務職員、業務員、体育館管理人

#### (2) 施設の安全確認

・建物の傾き ・周辺地盤の状況 ・床、窓ガラスの破損 ・火災発生の危険性

・ガス漏れ ・通電、通水状況 ・トイレ状況 ・放送設備状況

※危険箇所には、張り紙やロープ等を貼るなどする。

#### (3) 教育委員会への状況報告

・教育総務課 TEL 72-5032 FAX 72-4004

・学校教育課 TEL 72-5033 FAX 72-4004

#### (4) 避難所への誘導

・受け入れ可能施設への避難誘導

・駐車場の整理（緊急車両の通路の確保）

#### (5) 必要物品の準備

・トイレ用水の確保（プールからの水汲み）

#### (6) 避難者の確認及び名簿の作成

・避難者確認票の記入、提出 → 名簿の作成

・車両所有者票の記入 → ダッシュボードへの提示

#### (7) 施設利用上のルールの周知

・開放場所の周知 ・トイレ利用の仕方 ・火気の使用 ・喫煙場所の指定

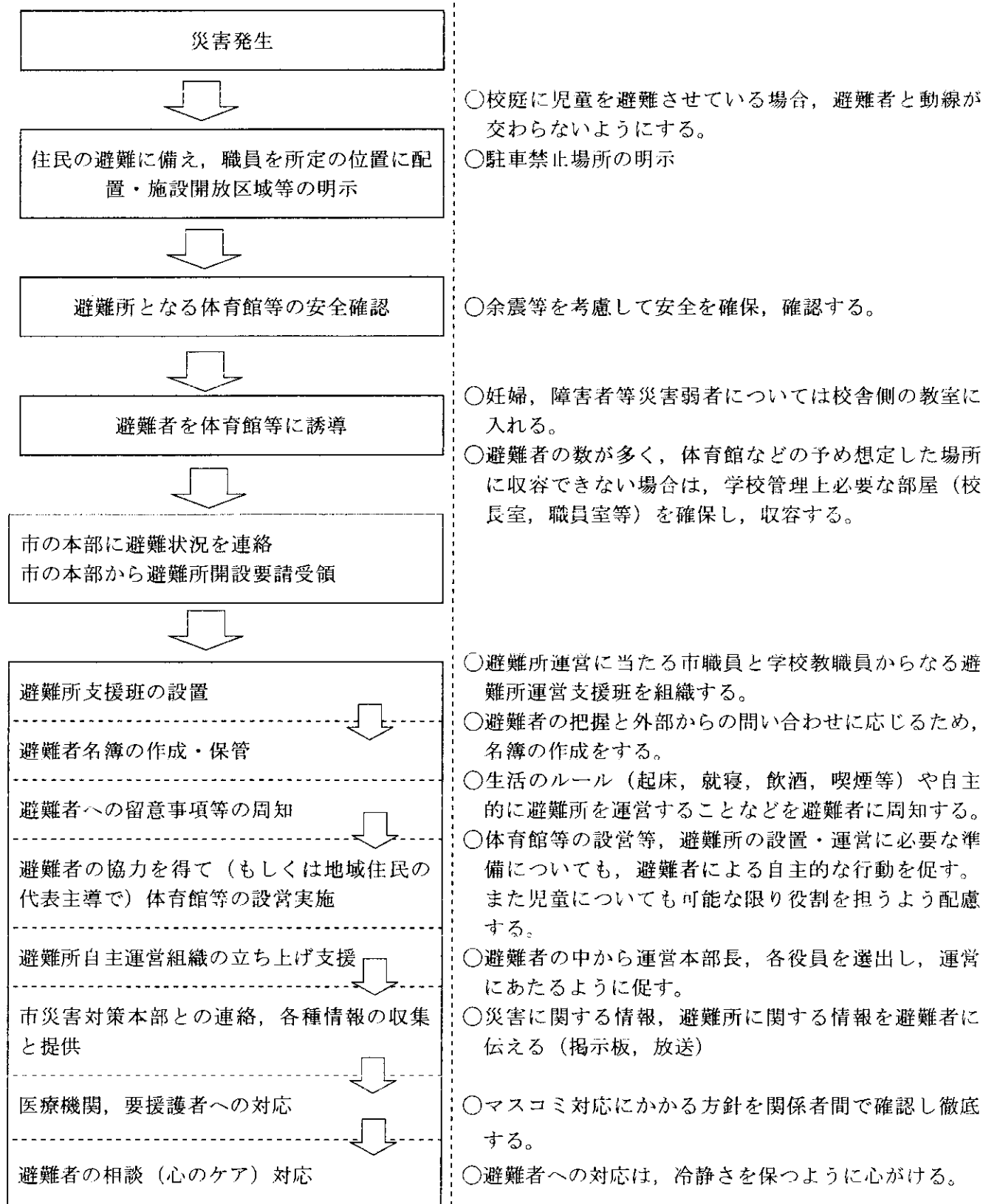
・ペットの扱い ・ゴミの出し方 ・清掃の割り当て等

\*施設利用上ルール表の貼付（当初は、最低限のルールとする）

## Ⅱ-5 避難所の設置・運営にかかる協力（学校が避難所）

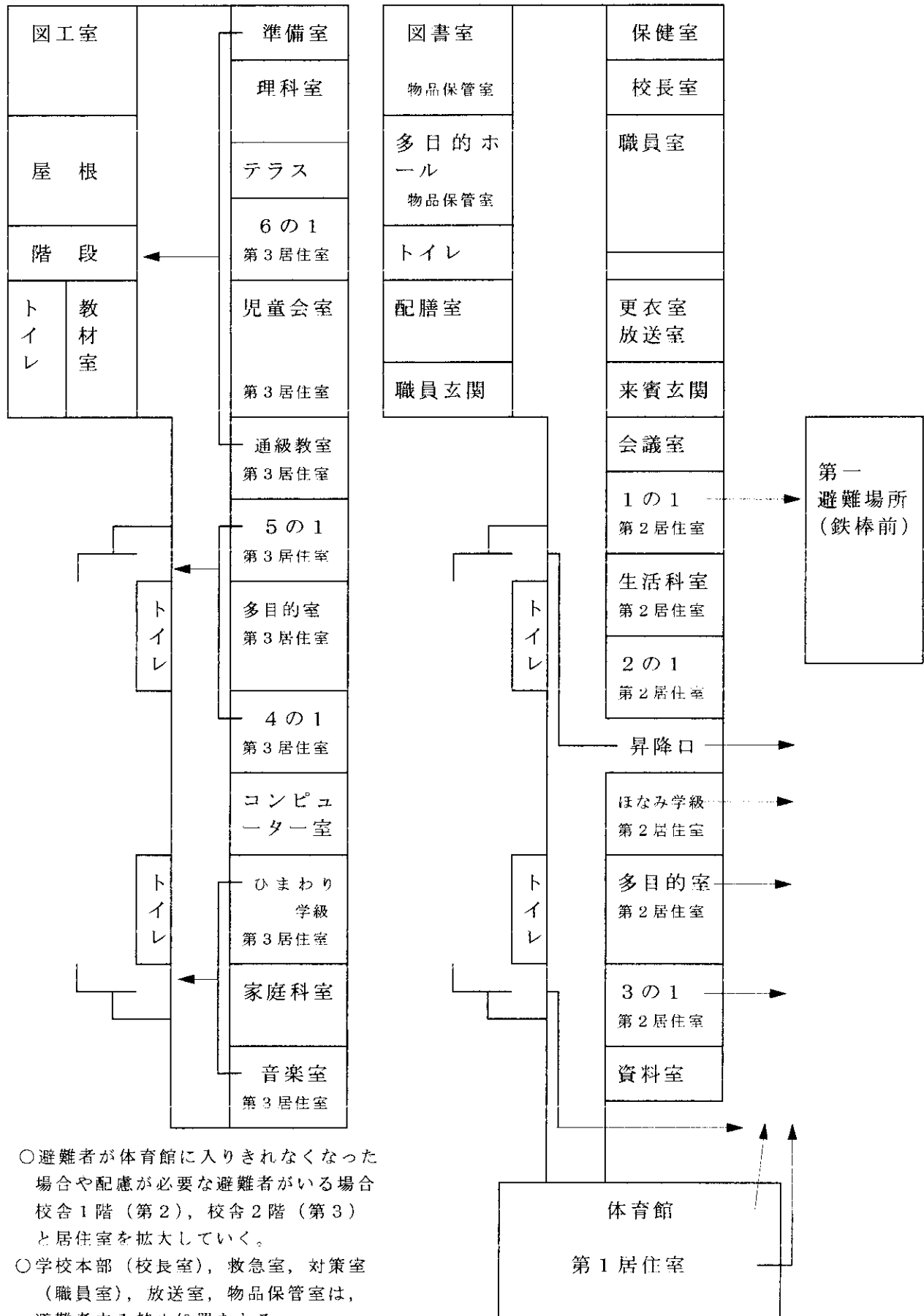
災害が発生した場合、学校が避難所として重要な役割を果たすことが予想される。本来的には大崎市災害担当課等が避難所運営の責任を有するものであり、災害時における教職員は児童の安全を確保するとともに、学校教育活動の早期正常化に優先的に取り組む必要がある。しかし、地域防災計画により指定避難場所となっている本校は、教育委員会等の指導のもと初動体制、運営協力体制、施設の使用等にかかる対応方針を定めておく必要がある。教職員が協力できる内容については、関係機関と調整を図りながら行っていく。その際、教職員の勤務時間帯にあっては、児童の対応にあたる教職員が多いことや、深夜など学校が無人の時に災害が発生する可能性があることを勘案し、可能な限り避難する地域住民が自主的に避難所の運営ができるように配慮していく。

### （１）災害発生初期段階





避難経路、学校が避難所になった際の配置図



## Ⅱ－６ 学校再開に向けた対応

### （１）学校再開に向けた取り組み

#### 【児童、教職員の被害状況の確認】

- ・児童の安否と所在場所の確認
- ・教職員の安否確認

#### 【家庭・保護者の被災状況の確認】

- ・保護者の安否と所在場所の確認

#### 【学校施設・設備等の確認】

- ・構造部材、副構造部材の点検と補修
- ・ライフライン（水道、電気、ガス等）の復旧状況
- ・危険箇所の立入禁止措置
- ・仮設校舎の建設要請
- ・校舎内外の清掃・消毒
- ・移転先での学校再開の準備

#### 【通学方法の確認と通学路の安全点検】

- ・危険箇所の点検と補修箇所の報告
- ・公共機関の運行状況の確認

#### 【教育環境の整備】

- ・学習形態の工夫と教職員の配置
- ・教科書、学用品の損失状況の確認と発注
- ・支援物資のとりまとめ（教育委員会との連携）
- ・文科省ポータルサイトの活用（支援物資）
- ・心のケア（スクールカウンセラーとの連携）
- ・マスコミ、ボランティア団体等の対応

#### 【避難所との共存】

- ・避難所運営組織と協議
- ・立入制限区域の明示

#### 【給食業務の再開】

- ・教育委員会、給食センターとの調整

○できるだけ速やかに、家庭訪問、避難所先を訪問し、児童の被害状況を確認する（避難先、連絡方法、健康状態等）

○地域、PTAと連携を図りながら、家庭・保護者の安否確認、所在場所、学区内の被災状況を確認する。

○災害の程度によって、校舎や施設設備等の使用再開について、専門家（応急危険度判定士等）の点検を受けて決定する。

○ライフラインの状況を点検し、関係機関に協力を依頼する。

○理科室等の危険薬品、灯油保管場所等を確認する。

○校舎内へ浸水があった場合は、清掃・消毒を実施する。

○通学路の安全を確認し、危険箇所について関係機関に連絡する。

○当面の学習形態（午前授業、短縮授業等）と学習プログラムを検討する。

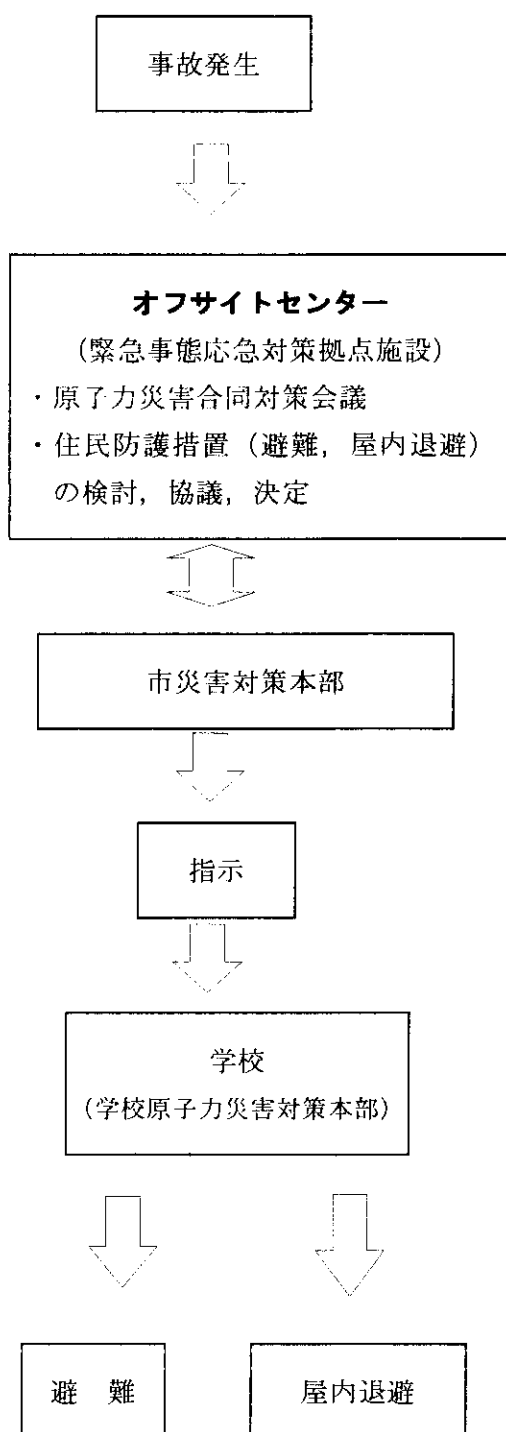
○教科書の損失状況を確認し、不足分の確保に努める。

○マスコミ、ボランティアの対応については、校長、教頭が行う。

○学校が長期的に避難所として使用されることがあるため、立入制限区域を明示することや、お互いの生活のルールを確認する。

○給食業務が再開できるように、関係機関と調整を図る（簡易給食の手配等）

## (5) 情報連絡体制



○原子力事業所における事故により、環境への基準以上の放射線物質など異常な事象が発生した場合は、事故発生事業者の防災管理者は、直ちに原子力災害対策特別措置法第10条1項の規程に基づき、知事・市町村長等の関係機関に通知する。

(オフサイトセンターは災害時に国、県、市町村、原子力事業者等が集まり、災害対策を行う拠点施設)

○原子力災害発生時には、原子力災害合同対策会議を設置し、情報共有、意思統一を図り、迅速・適切に緊急事態応急対策を検討・協議・決定する。

○市町村が定めた計画等により、事故のレベル、風向きなども考慮して避難措置を行う。

○オフサイトセンターから出た情報は、あらゆる広報手段で地域住民に伝える。

○学校独自の判断で対応せず、市町村災害対策本部の指示に従って、行動する。

○学校において緊急的な医療行為等の対応が生じた場合は、市町村災害対策本部に連絡し、その指示を受ける。

### 避難

市町村災害対策本部からの指示により、市町村が準備した車両により、放射線被曝を低減できる指定された避難場所に移動すること。

### 屋内退避

市町村災害対策本部からの指示により、教室などの屋内退避することにより、放射線の防護を図ることができる。

学校では、屋内退避の指示が発令された場合は児童を速やかに教室等に避難させ、窓、カーテンを閉めるなどの指示がでるまで教室等で待機させる。

### (3) 校内原子力災害対策本部組織の役割

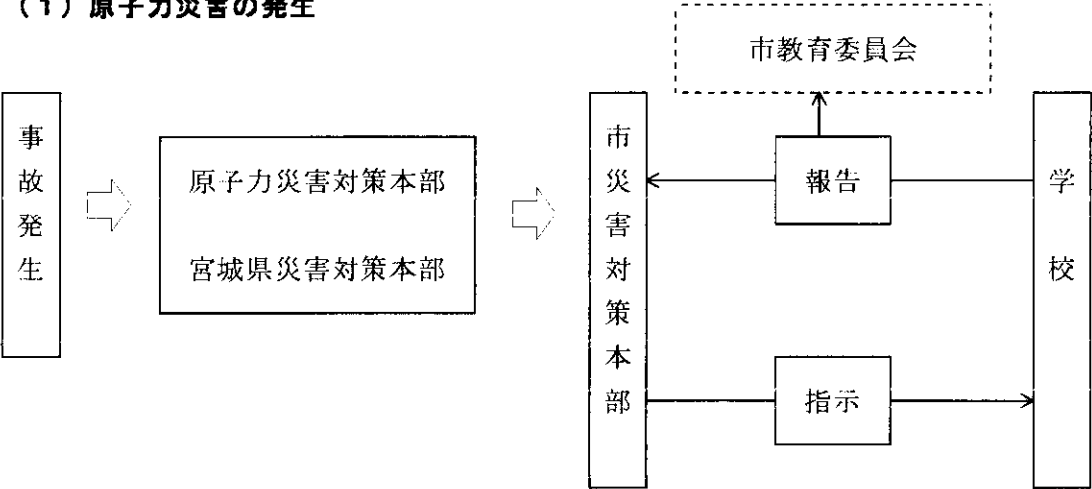
担当	災害に備えて	災害が発生した場合
本部長 (校長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員に対して、災害時の対応についての役割分担を明確にする。</li> <li>保護者、地域に対して、災害時の学校対応、避難場所について周知徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校原子力災害対策本部を設置する。</li> <li>○市からの指示に従い、初動体制のもとに各業務にあたるように指示する。</li> <li>○市教育委員会へ随時状況を報告する。</li> </ul>
副本部長 (教頭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員に対して、災害に備えた体制整備と共通理解を図る。</li> <li>保護者、地域に対して窓口となり、周知を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本部長を補佐し、教職員が迅速、適切に活動できるよう連絡調整する。</li> <li>○関係機関、報道機関の窓口になる。</li> </ul>
避難誘導班 (学級担任)	<b>【屋内退避】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>退避場所への誘導、指導内容の徹底。</li> </ul> <b>【避難】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難時、市が手配した車両に案伝に乗車できるように誘導、乗降指導の周知徹底を図る。</li> </ul>	<b>【屋内退避】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教室内へ速やかに退避させる。(窓、カーテンを閉める、換気扇を止める)</li> </ul> <b>【避難】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○屋内に退避させた後、指定された避難所に避難誘導する。</li> </ul>
情報連絡班 (教務主任等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を迅速、適確に伝えることができるように連絡網を作成する。</li> <li>情報の入手先を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難状況等について、保護者の問い合わせに対応する。</li> <li>○避難している児童に必要な情報を伝える。</li> </ul>
救護・衛生班 (養護教諭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急用品の確保及び救護体制を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童、教職員に対する適切な救護・応急手当、健康観察を行う。</li> <li>○緊急的に医療行為の必要が生じた場合は、災害対策本部に連絡し指示を受ける。</li> </ul>
給食・物資班 (給食主任)	<ul style="list-style-type: none"> <li>物資の保管場所を事前に確認しておく。</li> <li>災害時の物資について、常備する物を市担当課と確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市災害対策本部と連携し、必要な物資の確保と適切な配給を行う。</li> </ul>
防災主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校原子力防災計画を作成する。</li> <li>原子力安全に関する学習プログラムを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本部長の指示のもと、教職員間、市災害対策本部との連絡調整を行う。</li> </ul>

### (4) 場面に応じた災害時の対応

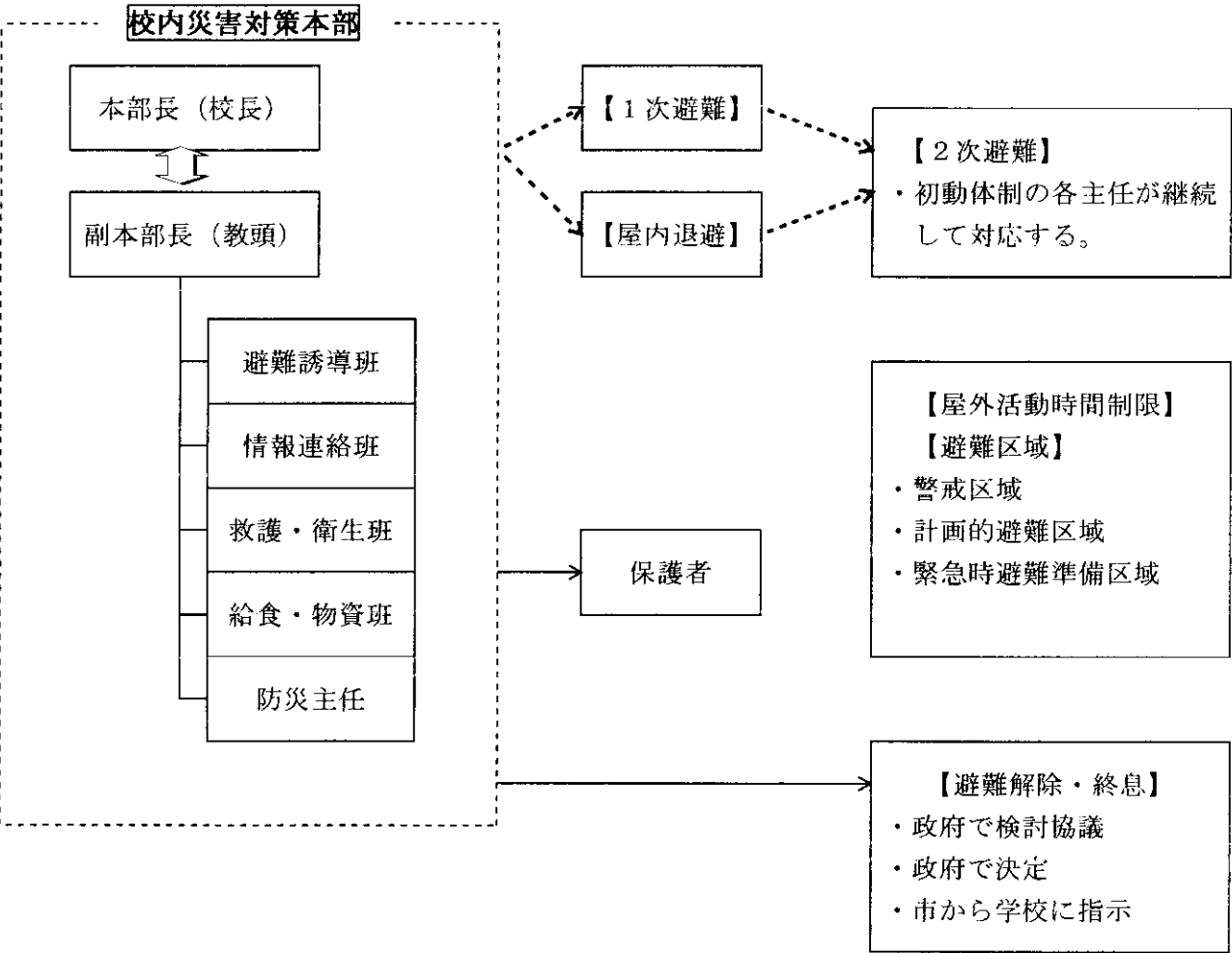
授業中	○児童が在校中に原子力災害が発生した場合の避難・屋内退避の体制を整備しておく。
登下校中	○防災無線や広報車などの放送等をしっかり聞いて指示に従うように、児童及び保護者に対し、事前に周知徹底を図っておく。
校外学習中	○原子力施設のある地域での校外学習中に原子力災害が発生した場合は、施設管理者、市災害対策本部の指示に従って、児童の安全を確保する体制を整えておく。
休業日 (夜間・休日)	○自宅にいた時に、災害が発生した場合は、可能な限り避難所に向かい、児童の所在を確認する。

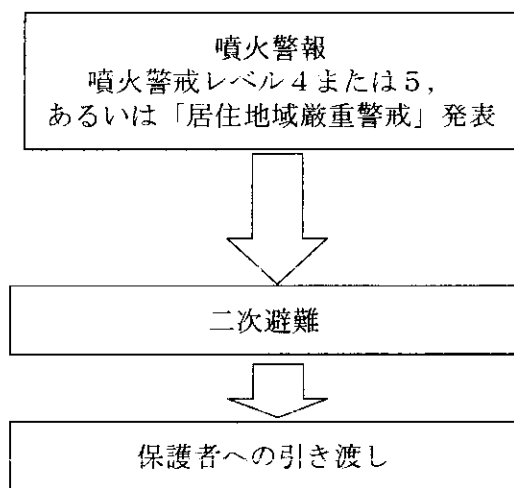
Ⅲ－１ 原子力災害時の対応

（１）原子力災害の発生



（２）学校での初動体制





噴火警戒レベル4……避難準備  
(警戒が必要な居住地域での避難準備等)  
噴火警戒レベル5……避難  
(危険な居住地域からの避難)

※噴火警戒レベルが未導入の火山では「居住地域嚴重警戒」として発表される。

保護者への引き渡しを実施する。

○災害対策本部に職員等の派遣を依頼する。

○引き渡しまで時間を要する場合は、災害対策本部（市防災担当課）の指示に従い、二次避難場所に移動させる。

#### 【資料：鳴子火山帯】

宮城県北西部に位置し、直径約 7km の不鮮明な輪郭をもつカルデラとその中央部の溶岩ドーム群からなる。デイサイト (SiO<sub>2</sub> 70 ～ 75%) の 4 つの溶岩ドームが一群をなし、それらに囲まれた酸性の火口湖・潟沼（直径 400 m）の内外やその西側の溶岩ドーム（海拔 396m）の壁では硫気活動が盛んである。

溶岩ドームには直径 100 ～ 400m 程度の火口地形が多数認められ、後カルデラ期には溶岩ドーム群の形成とそれを一部破壊するような爆発的な活動が発生していたと考えられる。溶岩ドームや湖成層はテフラ群に覆われ、そのうち比較的分布域が広い潟沼-上原テフラ（1.8 万年）が潟沼形成に関わったと考えられている。

#### 最近 1 万年の活動

鳴子火山のうち、潟沼西部の溶岩ドームは溶岩直下の砂礫層中の樹幹の年代測定により、約 11800 年目前頃から開始したと推測される。また、山麓部では腐植土中に鳴子火山起源の火山灰が分布しており、その噴出年代は下位の腐植土中の年代分析値から、約 5400 年前以降と推測される（小元：1993）。溶岩ドーム形成後の地熱活動により、2000 ～ 3000 年前に水蒸気爆発が発生している（伊藤ほか：1997）。

#### 記録に残る火山活動の記録

837（承和 4）年 5 月 噴火？  
1976（昭和 51）年 7 月 地鳴り  
1985（昭和 60）年 3 月 28 日から 地震多発。

※「概要」及び「最近 1 万年の活動」については日本活火山総覧（第 3 版）（気象庁編，2005），「記録に残る火山活動」については前述の活火山総覧及び最近の観測成果による。

### Ⅲ－３ 火山災害が想定される場合の対応

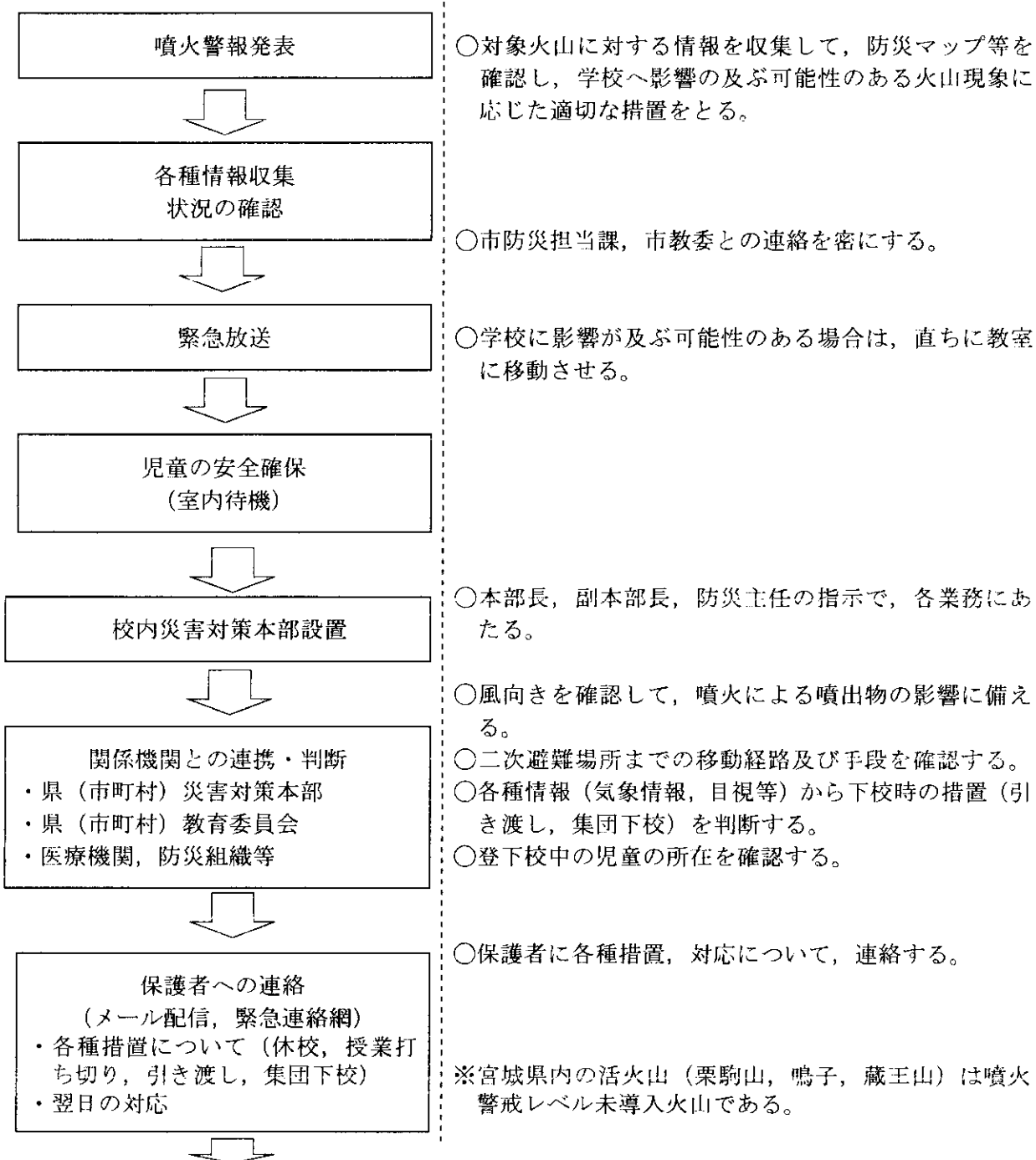
当地域の近隣山岳では栗駒山（１９４４年噴火）、鳴子（８３７年噴火）が活火山として定義されており、万が一の噴火を想定し、瞬時に避難できる体制を整えておく必要がある。噴火には、爆発的なものと穏やかなものなど様々なタイプがあるが、噴出物（噴石、火山灰等）が高温であることや、広範囲に降り注ぐことで、大きな災害をもたらすことがある。

（日本活火山総覧第３版，気象庁編２００５）

#### （１）平常時の対応

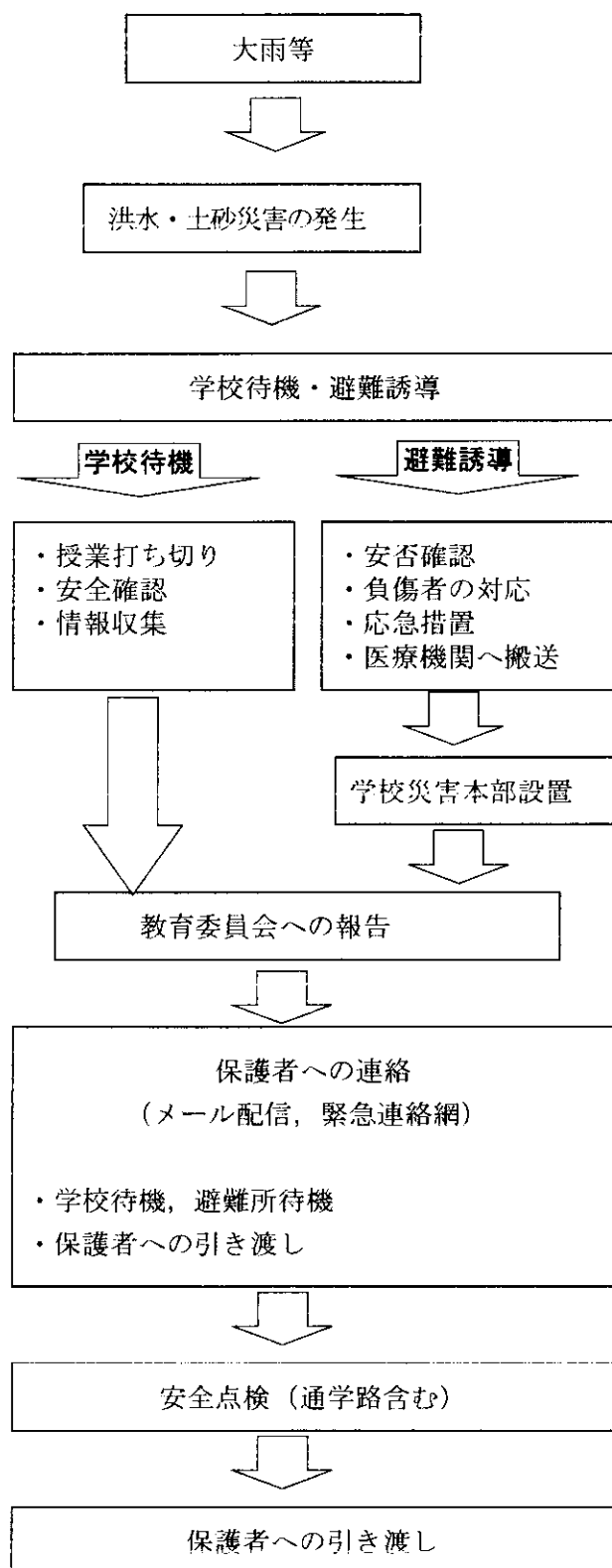
- 噴火警報等火山活動に関する情報を迅速かつ正確に把握できる体制を整えておく。
- 防災マップ等を参考に、学校に影響を及ぼす可能性のある火山現象を把握しておく。
- 火山現象に応じた避難場所や避難経路を確認しておく。
- 異常な現象を発見した場合には、市あるいは気象台等へ連絡する。

#### （２）火山活動発生時の対応





## (2) 災害発生時の対応（在校時）



- 気象情報，河川・道路情報を確認する。
- 学校や通学路を含めた周辺の状況を監視する。

- ・田尻川が氾濫する危険性がある。
- ・地域の低い場所が浸水している。
- ・江合川の堤防が決壊するおそれがある。

- 避難勧告が発令された場合は，安全な場所に避難誘導する。
- 適切な避難経路を指示した上で，教職員が先導する。
- 悪天候での避難誘導も想定し，移動手段を確認する（保護者の車両等）

- 避難場所で人員の確認
- 負傷者の有無，必要に応じて応急手当，医療機関への搬送をする。

- 本部長（校長）の指示のもと，各班の業務を行う。

- 児童の安否，被害状況，休校措置等を報告する。
- 市防災担当課，関係機関と連携を図り，救援依頼をする。

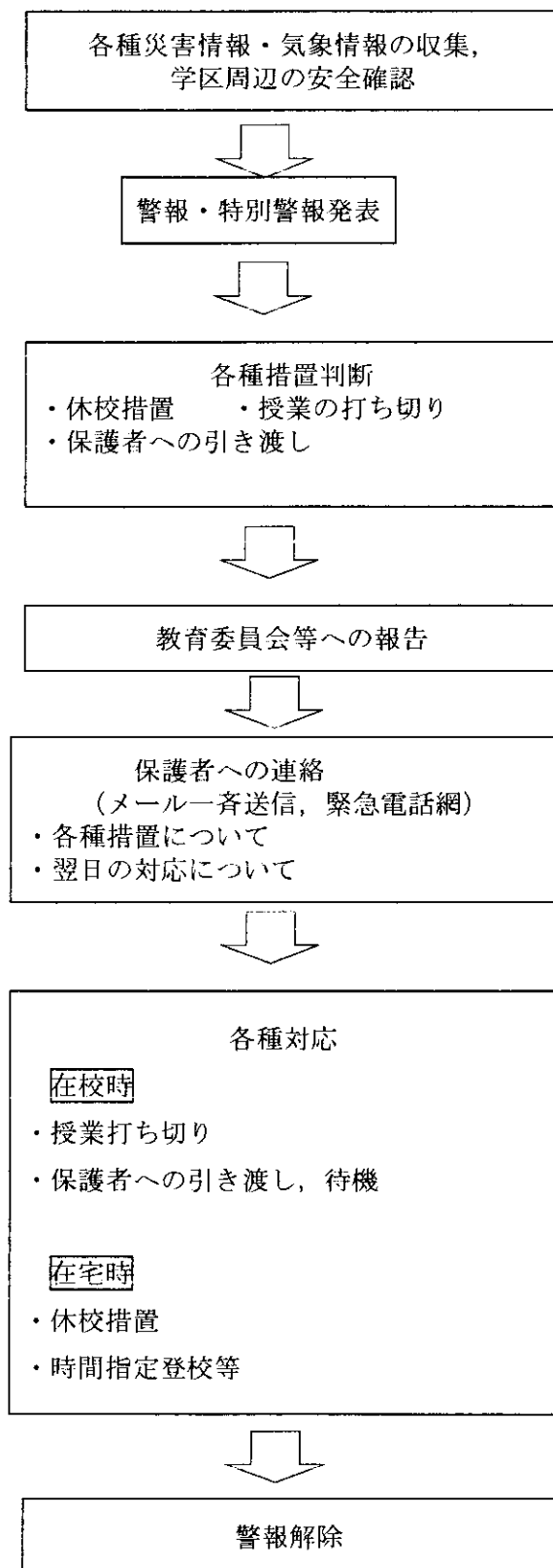
- 保護者に各種措置，対応について，連絡する。

- 地域と連携し，通学路を含めた周辺の安全点検をする。

- 引き渡しまでの時間を有する児童は学校に待機させる。

### Ⅲ－２風水害想定への対応（暴風、大雨、洪水、注意報・警報・特別警報等の発令）

#### （１）警報発表中の対応（災害発生前）



- 気象情報を確認し、河川・道路情報、交通機関状況を確認する。
- 通学路を含め、学校周辺の安全を確認する。

- 校長は、休校、授業打ち切り等を判断する。
- 各種情報（気象情報、目視等）から下校時の措置（引き渡し）を判断する。
- 警報の時点で安全確保のための判断をする。
- 特別警報は、数十年に一度の大雨や3 mを超える津波が予想される場合等に発表されることから、児童の安全確保はもちろん、教職員の安全確保の観点からも休校もしくは学校待機（ただし、自治体の勧告や指示の発令がある場合は避難）とする。

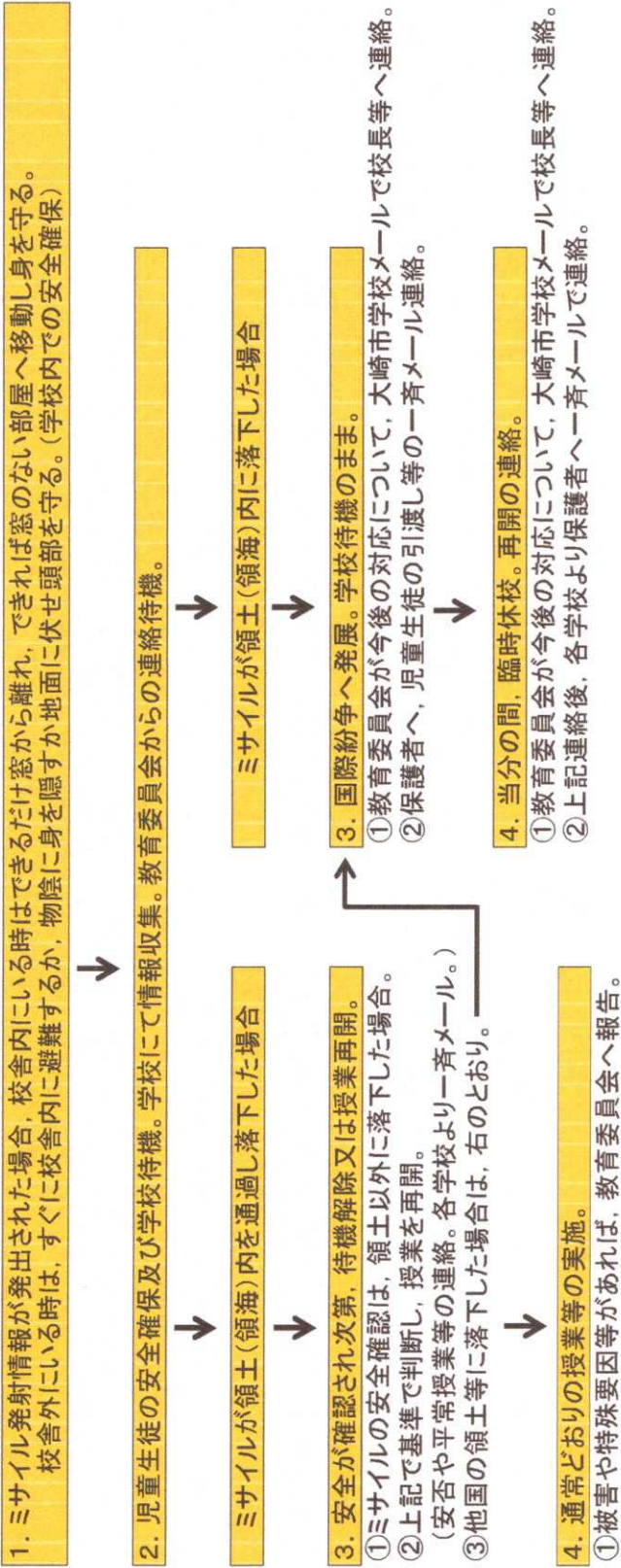
- 措置の状況を報告する。

- 保護者へ各種措置、対応を連絡する。  
※休校措置については、テレビ・ラジオなどの報道機関を活用する。
- 学校の対応についてのプリントを配布する。

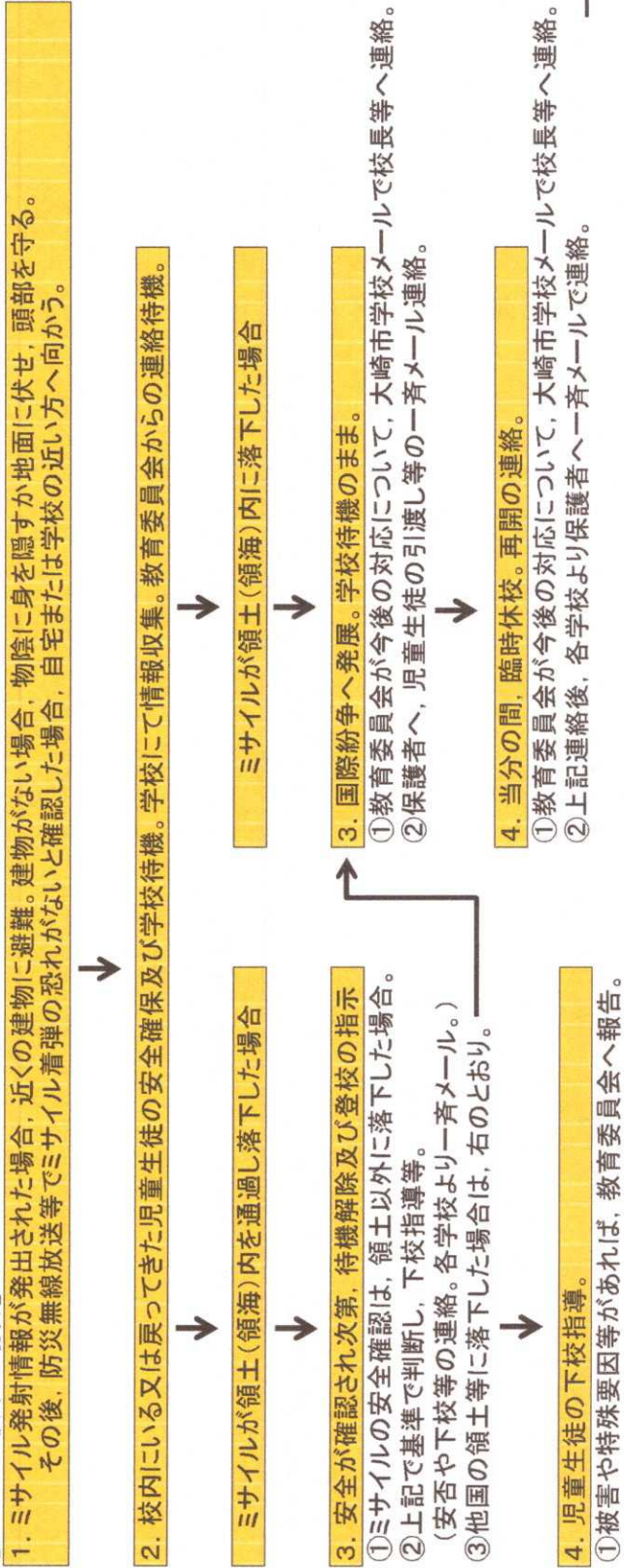
- 必要に応じて、保護者への引き渡しを実施する。
- 引き渡しまで時間を要する場合は、児童を学校に待機させる。
- 保護者以外の引き取りについては、チェックリストなどで事前に確認しておく。

## 弾道ミサイル発射時の緊急事態対応について②

### 対応3【平日の授業中の場合】

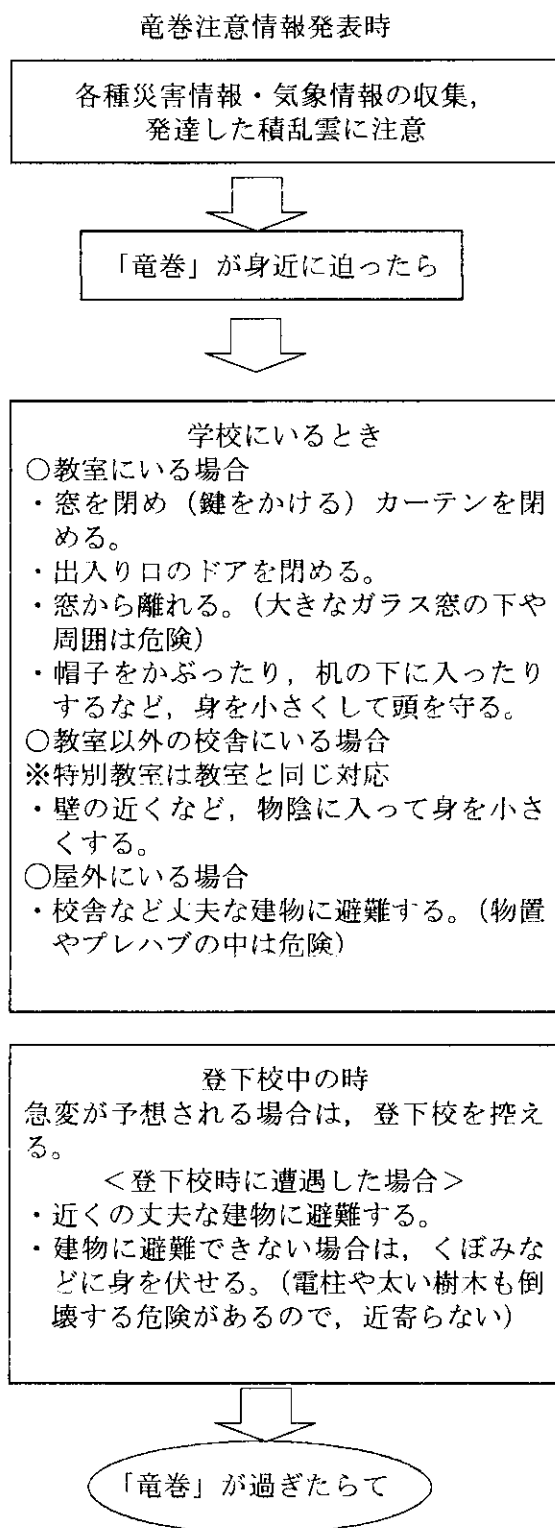


### 対応4【平日の下校中の場合】



### Ⅲ－４突風・竜巻が想定される場合の対応

#### （１）竜巻注意情報等発表時及び発生時・発表後の対応（災害発生前～発生時～発生後）



○気象情報を確認し、空の様子を見て発達した積乱雲が近づいているか確認する。

※「発達した積乱雲が近づくきざし」

- ・真っ黒い雲が近づき周囲が急に暗くなる。
- ・雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ・ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- ・大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

○校長は、校内放送等で緊急事態を全職員及び児童に知らせる。

○教職員は、児童に指示をして安全な場所を確保し、安全な態勢を取らせる。

※廊下等にいる場合は、窓から離れた場所に身を隠すように指示する。

○児童を素早く校舎内に誘導し、安全確保に努める。

○児童に竜巻が発生したときの対応の仕方について、事前に指導しておく。

○自宅においての対応の仕方についても事前に指導しておく。

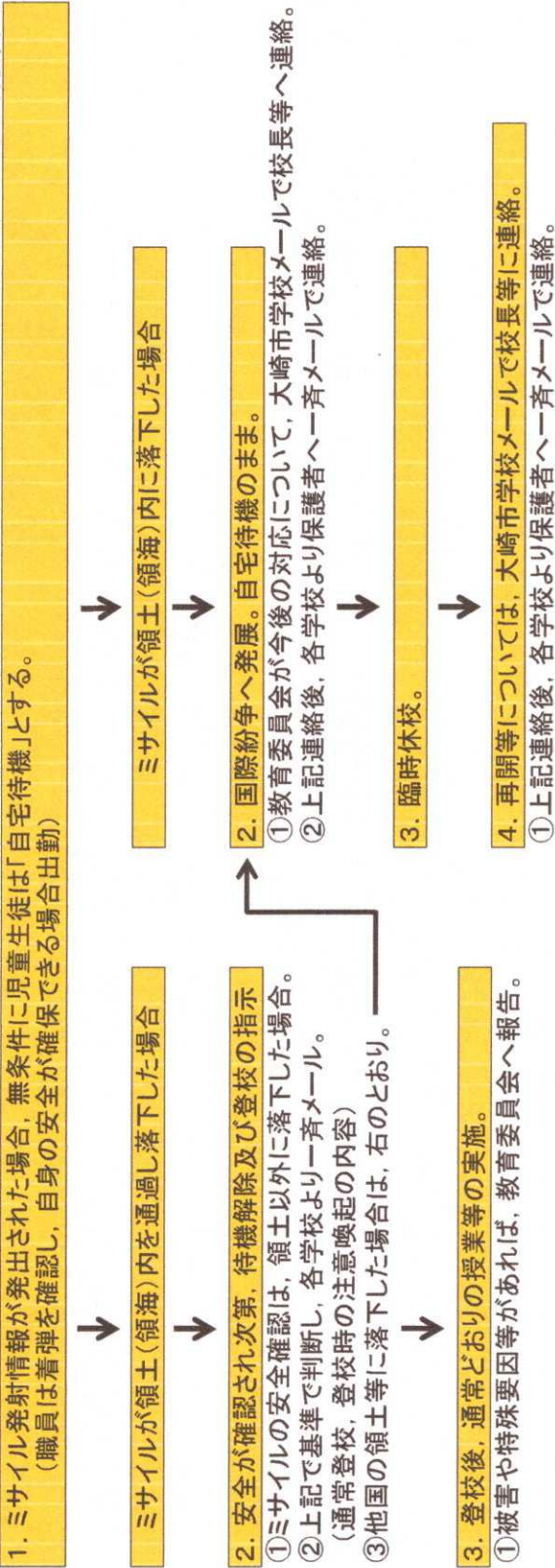
○児童の状況（けが等）を確認するとともに、校舎の状況について確認する。



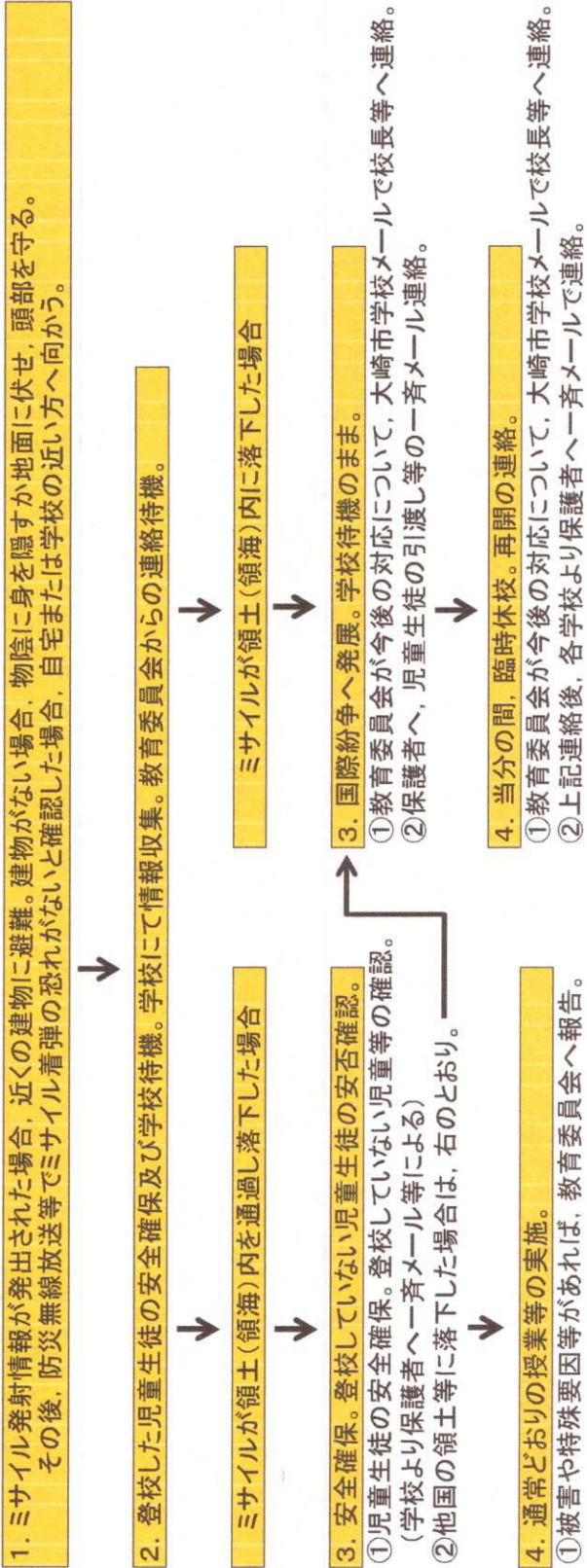
# 弾道ミサイル発射時の緊急事態対応について②

## 対応1【平日の登校前の場合】

平成29年10月：大崎市教育委員会



## 対応2【平日の登校中の場合】



## 弾道ミサイル発射時のスクールバス運行の対応について①

時間帯		登下校前	登下校中
運行等の基本		待機	車内避難
判断者		教育委員会・運行業者	バス運転者
ミサイル状況		運行詳細	
発射	宮城県の方に発射	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則待機</li> <li>・既に目的地へ走行中の場合、安全な場所に停車し情報収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くの安全な場所に停車</li> <li>・座席下等に身を隠す指示</li> </ul>
	他地域の方に発射 (Jアラート作動なし)	通常どおりの運行	
落下	領土・領海に落下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機継続(情報収集)</li> <li>・運行中止等(教委→業者→バス運転者)</li> </ul>	乗車中の児童生徒を、速やかに目的地(学校又は各停留所)へ輸送
	領土・領海外に落下	通常どおりの運行に戻る	



### Ⅲ-5弾道ミサイル発射時の緊急事態対応について①

平成29年10月：大崎市教育委員会

①状況分析からすると、Jアラート等では詳細の情報はわからないため(通過位置等)、安全が確保されるまでは情報発出後は無条件に待機とする。

②ミサイルの落下した場所により、解除(登校指示等)又は待機継続にわかれる。

③解除については、領土(領海)以外に落下した場合、学校よりメール配信する。

・学校の発信基準は、ミサイル通過の情報(JアラートやTV等)があった際に解除。【Jアラート情報例文「ミサイル通過。ミサイル通過。先程のミサイルは、●●地方から●●へ通過した模様です。不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡して下さい。】

④待機継続については、領土(領海)内に落下した場合。その後の指示については、教育委員会から連絡する。

⑤Jアラートが発出された場合の自宅待機、避難行動については、児童生徒及び全保護者に通知していることが前提。(中学校区単位で同様の内容の通知。避難行動についても同様に扱う。)

⑥上記を基本とするが、活動時間帯(登校前、登下校や授業中など)にもよるため、詳細は対応1から4のとおり。

以下、対応の基本は次のとおり。詳細は別紙対応を参照。

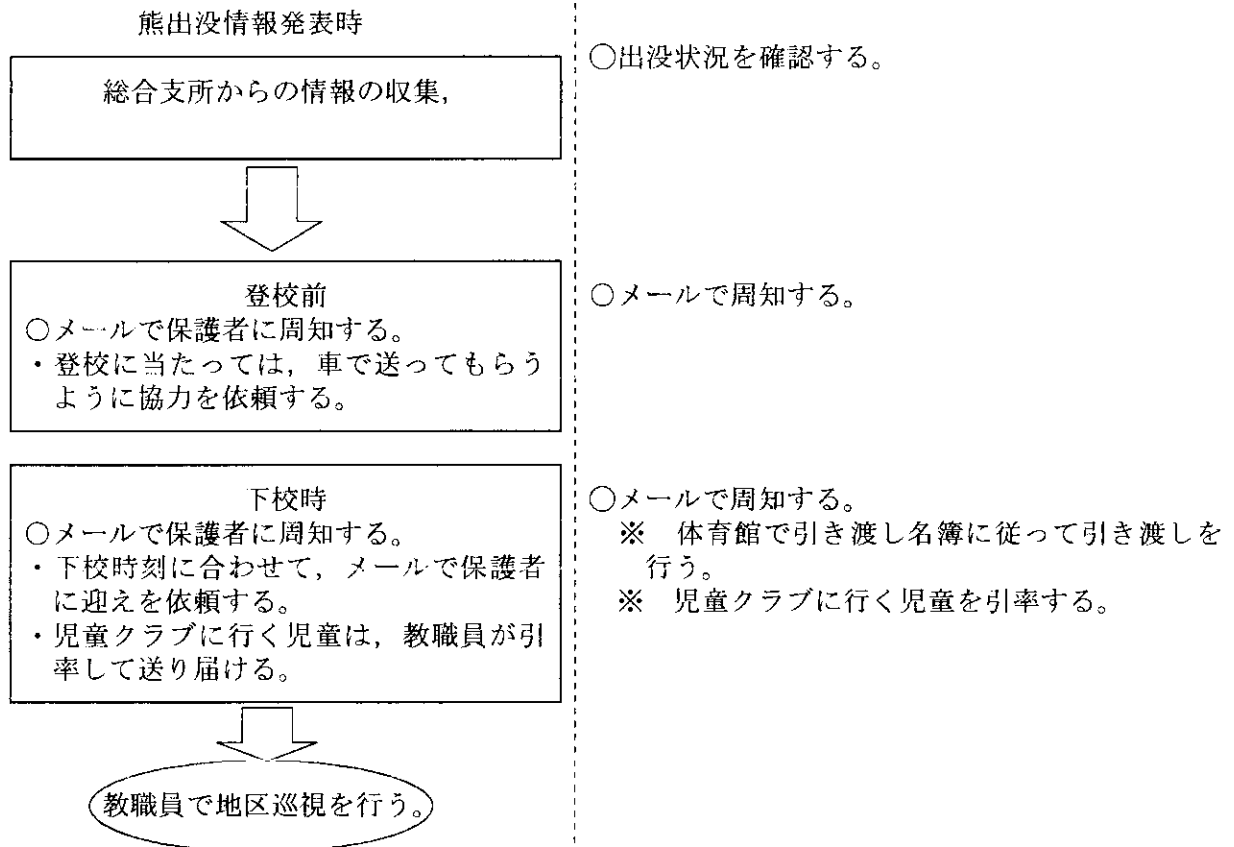
#### 【対応の基本】(一覧)

時間帯		登校前	登下校中	在校中	在宅・休日
避難行動等の基本		待機	建物等への避難	校舎内避難	待機
判断者		保護者等	児童生徒等	校長	保護者等
ミサイル状況		対応詳細			
発射	宮城県の方に発射	自宅待機 避難行動 (学校メール等 により登校)	・近くの建物や 物陰に身を隠す ・自宅か学校の 近い方へ避難	校舎内等 避難行動	自宅待機等 避難行動
	他地域の方向に発射 (Jアラート作動なし)	通常どおり(情報の収集)			
落下	領土・領海に落下	待機継続 避難行動	避難行動	避難行動	待機継続 避難行動
	領土・領海外に落下	通常行動に戻る			

避難行動	落下物や爆発に備えた行動例
屋外にいる場合	・近くの建物の中や地下などに避難する。 ・近くに適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ、頭部を守る。
屋内にいる場合	・できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

### Ⅲ－５ 熊等の害獣出没の場合の対応

#### （１）熊等の出没時の対応（災害発生前～発生時～発生後）





# 熊の出没情報への対応

## ★学区内に熊が出没したという情報があった場合

1. 学校メールで家庭へ周知する。
2. 登校時は、各家庭で学校まで送ってもらう。
3. 下校時は、引き渡し名簿に記載されている方に迎えに来てもらう。
4. 体育館で引き渡しを行う。
5. 児童クラブへ行く児童は、教職員が引率して送り届ける。
6. 教職員による巡視を行う。



### 熊に遭遇したら・・・

- 大声を出さない。(刺激しない。)
- 後ずさりをして立ち去る。
- ※ 背を向けて逃げるのは厳禁！

熊の目撃情報は、田尻総合支所 地域振興課へ

☎ 39-1111

大崎市立田尻小学校

各地の震度に関する情報	最大震度１以上が観測されたときに発表する情報です。地震の震源要素（発生時刻、緯度・経度、深さ、地震の規模（マグニチュード））、震央地名、観測点ごとの震度からなる情報です。 震度５弱以上になった可能性がある震度観測点の震度データが得られていないとき、その事実も含めて発表します。 「津波なし」の場合はその旨を付加した津波予報を含めて発表します。
地震回数に関する情報	地震が多発した場合、震度１以上を観測した地震回数を発表します。
地震の活動状況に関する情報	気象庁が報道発表を行ったとき、その内容を発表します。

### （３）津波警報・注意報等の解説

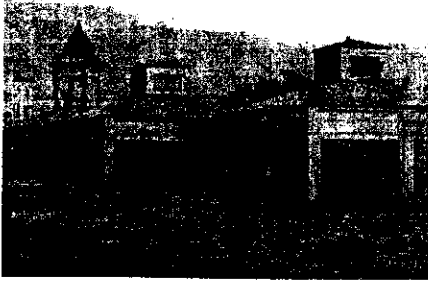




津波警報・津波注意報		解 説	発表される津波の高さ
津波警報	大津波	高いところで３ｍ程度以上の津波が予想されるときに発表します。 家屋の倒壊など、人命に関わる被害が発生するおそれがあります。	３ｍ、４ｍ、 ６ｍ、８ｍ、 １０ｍ以上
	津波	高いところで２ｍ程度の津波が予想されるときに発表します。 漁船の流失や家屋の浸水などの被害が発生するおそれがあります。	１ｍ、２ｍ
津波注意報		高いところで０.５ｍ程度の津波が予想されるときに発表します。 満潮時刻と重なると、湾の奥など津波が高くなりやすい場所では、浸水などの被害が発生するおそれがあります。	０.５ｍ
津波予報		津波の心配がない場合や、津波による被害の心配がないものの、若干の海面変動が予想される場合に発表します。	

### 津波の速さと高さ

津波の速度は水深によって決まります。沖合の深いところでは速く、浅いところでは遅くなります。水深５０００ｍでジェット機並みの時速約８００ｋｍ／ｈ、水深５００ｍで新幹線並みの時速約２５０ｋｍ／ｈ、水深１００ｍで高速道路を走る自動車並みの時速約１００ｋｍ／ｈ、水深１０ｍでオリンピックの短距離選手並みの時速３６ｋｍ／ｈになります。

また、水深が浅くなるほど津波は高くなります。速度が速い沖合では、波高に比べて波長が非常に長いので目で見えるのは目前に迫ってからですが、そのときには逃げ遅れてしまうおそれがあります。



泥流・土石流	<p>火砕流が積もっていた雪を溶かして、泥流を発生させることがある。また、火山灰が堆積しているところに雨が降ると、少ない降水量でも土石流が発生することがある。これらの現象により、山麓にも大きな災害をもたらすことがある。</p>	
火砕流	<p>火砕流は火山ガス、火山灰、小さい噴石（火山れき）などが一体となって斜面を流れ落ちる現象である。数百℃の高温に加え、速いものでは時速100km以上という高速のため発生してから避難は難しく、火山現象の中でも最も危険なものの一つである。気体の割合が多い火砕サージを伴うこともある。</p> <p>1991年に長崎県雲仙普賢岳の噴火で発生した火砕流では、一度に43人が亡くなった。</p>	
溶岩流	<p>溶けた状態の岩石が地表に流れ出したものが溶岩流である。1000℃前後という高温のため、山林や耕地、建物や道路などすべてを焼き払い、埋めつくしてしまう。また冷えて固まった溶岩流は取り除くのが困難で、農地など使えなくなってしまう。</p> <p>1986年の伊豆大島噴火では、大量の溶岩流が海まで流れ出た。</p>	
火山ガス	<p>多くの火山では、火口やそれ以外の山腹や山ろくに噴気活動が見られる場合があり、火山ガスが噴出している。火山ガスには、硫化水素、二酸化硫黄などの有害物質が含まれるため、それを吸った人や家畜に被害が出た例もある。2000年、北海道の有珠山噴火では、火山ガスが激しく噴出し、伊豆諸島の三宅島では、今なお、大量の火山ガス放出がある。</p>	
山体崩壊	<p>火山噴火やそれにとまう地震・地殻変動が引き金となって、火山の山体の一部が一気に崩れ落ちる現象である。その際に発生する大量の土砂の流れを、岩屑なだれと呼ぶ。岩屑なだれによる山体崩壊は、大規模な地滑りとともに高速の爆風を伴うこともあり、きわめて危険な火山現象である。</p> <p>磐梯山噴火(1888年)などで発生している。</p>	

平成12.6.14 有珠山の泥流被害

平成6.6.24 雲仙普賢岳の火砕流

昭和61.11.19 伊豆大島噴火の溶岩流

2002年 火山ガスを大量に含む三宅島の噴煙

1888年 磐梯山で山体崩壊が発生



※表中の写真はすべて気象庁HPから

噴火警戒レベル導入火山における噴火警報、噴火予報は次の表のとおり。

※いずれも気象庁HPから

名称	対象範囲を付した警報の呼び方	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況
噴火警報	噴火警報(居住地域) ↓ (略称) 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。
			レベル4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。
	噴火警報(火口周辺) ↓ (略称) 火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
		火口から少し離れた所までの火口周辺	レベル2 (火山周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
噴火予報	—	火口内等	レベル1 (平常)	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

#### (5) 噴火に伴う現象

噴石	<p>噴火に伴って空中に放出される岩石を噴石と言う。直径数十センチを超える大きな噴石の到達距離は、火口から通常4 km程度までであるが、その直撃により死者や建物被害を発生させることがある。</p> <p>規模の大きな噴火の場合、火山上空の風速によってはこぶし大の噴石が火口から10 kmを超える地域まで落下することがある。</p>	 <p>平成 17. 8. 4 浅間山の噴石</p>
火山灰	<p>噴火に伴って空中に噴き出される火山灰は風に乗って広い範囲に運ばれ、農作物に被害を与えたり、陸や空の交通に大きな影響を及ぼしたりする。さらに小さな噴石(火山れき)、火山灰が多く積もった地域では、その後の雨によって土石流が発生する恐れがある。</p>	 <p>平成 12. 7. 16 三宅島の降灰</p>